

PHILLY MOMY

April 2025
NHK Symphony Orchestra, Tokyo



終演時のカーテンコールを 撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」【#nhkso】の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自身からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos
during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.



「フラッシュ」オフ 設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているか確認をお願いいたします。

Set your device to “flash off mode.”

Make sure that your smartphone is on
“flash off mode” before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

インターネット アンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは55ページをご覧ください




こちらのQRコードから
アンケートページへ
アクセスできます


<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>


お客様へのお願い


Please kindly keep in mind the following:


 公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.


 私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないように配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.


 大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください
Do not disturb others by overly swaying your body.


 発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.


 演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."

 演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.

 適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.

 場内での録音、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)

 補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.

 「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、周囲の方へのご配慮にご協力をお願いいたします
When shouting "Bravo," please be considerate of people around you.

PHILHARMONY

CONTENTS
APRIL 2025

4

- 3 **特集** **NHK交響楽団定期公演 2025-26シーズンプログラム**
(2025年9月~2026年6月)
- 13 チケットのご案内(定期公演 2025年9月~2026年6月)
- 14 「N響100年記念 個人サポーター」の募集について
- 20 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 26 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 32 [シリーズ] **N響百年史** | 第54回 | **紀元は2600年** 片山杜秀

2	NHK交響楽団メンバー	Artist Profiles & Program Notes	
38	2025年5月定期公演のプログラムについて ——公演企画担当者から	57	Program A
40	チケットのご案内(定期公演 2024年9月~2025年6月)	61	Program B
41	[WEBチケットN響][N響ガイド]サービス手数料 改定のお知らせ	65	The Subscription Concerts Program 2024-25
42	2024-25定期公演プログラム	66	The Subscription Concerts Program 2025-26
43	特別公演/各地の公演/海外公演	69	Overseas Tours
50	特別支援・特別協力・賛助会員	70	N響関連のお知らせ
54	曲目解説執筆者/Information(新入団/退団/訃報) /N響の出演番組	71	N響の社会貢献
55	みなさまの声をお聞かせください!	72	役員等・団友
56	NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members		

N響 創立100年ロゴが決まりました

NHK交響楽団は2026年に創立100年を迎えます。
数字の「100」を中心とした豊かな色彩は音楽の力を象徴し、
2つの「0」の交差が音楽の紡ぐつながりを表します。
創立99年ロゴも同様のコンセプトで作成しています。



NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイーヂ

名誉音楽監督:シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者:バーヴェ・ヤルヴィ

正指揮者:尾高忠明、下野竜也

第1コンサートマスター:郷古 廉、長原幸太

ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

- 青木 調
- 飯塚歩夢
- 字根京子
- 大鹿由希
- 倉富亮太
- 後藤 康
- 小林玉紀
- 高井敏弘
- 東條大河
- 猶井悠樹
- 中村弓子
- 降旗貴雄
- 松田拓之
- 三又治彦
- 宮川奈々
- 山岸 努
- 横溝耕一

第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎
- ◎森田昌弘
- 木全利行
- 齋藤麻衣子
- 嶋田慶子
- 白井 篤
- 田中晶子
- 坪井きらら
- 丹羽洋輔
- 平野一彦
- 船木陽子
- 俣野賢仁
- 村尾隆人
- 矢津将也
- 山田慶一
- 横島礼理
- 横山俊朗

米田有花

- * 清水伶香
- * 湯原佑衣

ヴィオラ

- ◎佐々木 亮
- ◎村上淳一郎
- ☆中村翔太郎
- 小野 聡
- 小島茂隆
- * 栗林衣季
- 坂口弦太郎
- 谷口真弓
- 飛澤浩人
- 中村洋乃理
- 松井直之
- 三国レイチェル由依
- # 御法川雄矢
- 村松 龍

チェロ

- ◎辻本 玲
- ◎藤森亮一
- 市 寛也
- 小島幸法
- 中 実穂
- 西山健一
- 藤村俊介
- 藤森洗一
- 宮坂拓志
- 村井 将
- 矢部優典
- 山内俊輔
- 渡邊方子

コントラバス

- ◎吉田 秀
- 市川雅典
- 稲川永示
- 岡本 潤
- 今野 京
- 西山真二
- 本間達朗
- 矢内陽子

フルート

- ◎甲斐雅之
- ◎神田寛明
- 梶川真歩
- # 中村淳二

オーボエ

- ◎吉村結実
- 池田昭子
- 坪池泉美
- * 中村周平
- 和久井 仁

クラリネット

- ◎伊藤 圭
- ◎松本健司
- 山根孝司

ファゴット

- ◎宇賀神広宣
- ◎水谷上総
- * 大内秀介
- 佐藤由起
- 森田 格

ホルン

- ◎今井仁志
- 石山直城
- 勝保 泰
- 木川博史
- 庄司雄大
- 野見山和子

トランペット

- ◎菊本和昭
- ◎長谷川智之
- 安藤友樹
- 藤井虹太郎
- 山本英司

トロンボーン

- ◎古賀 光
- ◎新田幹男
- 池上 亘
- 黒金寛行

テューバ

池田幸広

ティンパニ

- ◎植松 透
- ◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

こちらのQRコードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。



<https://www.nhksr.or.jp/about/member/index.html>

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター、*契約)



Kazuki Yamada

指揮者 / Conductor



Tugan Sokhiev

指揮者 / Conductor



Ryan Bancroft

指揮者 / Conductor



Andris Poga

指揮者 / Conductor



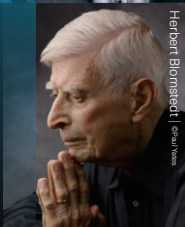
Tadaaki Oka

指揮者 / Conductor



Herbert Blomstedt

指揮者 / Conductor



Michael Bänderling

指揮者 / Conductor



Jaap van Zweden

指揮者 / Conductor



Charles Dutoit

指揮者 / Conductor



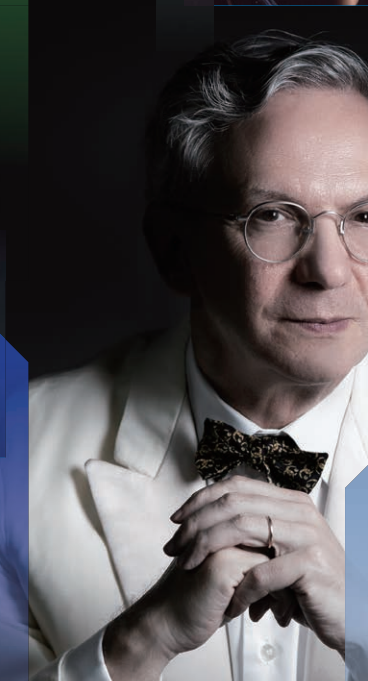
Tatsuya Shimono

指揮者 / Conductor



Fabio Luisi

指揮者 / Conductor



Stéphane Denève

指揮者 / Conductor



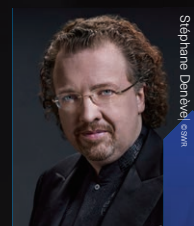
Philippe Jordan

指揮者 / Conductor



Rafael Payare

指揮者 / Conductor



Georgei Madaras

指揮者 / Conductor



Jakub Hruška

指揮者 / Conductor

NHK交響楽団定期公演 2025-26 シーズン プログラム (2025年9月~2026年6月)

2025-26シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

A

最高峰の指揮者、
ソリストたちと本格的作品を贈るプログラム。
オーケストラ音楽の醍醐味を存分に味わう。

NHKホール

土 6:00pm 日 2:00pm

Autumn

2025

09

September

第2042回

9/13

土 6:00pm

9/14

日 2:00pm

ルイーザがシーズン開幕に満を持して
ライフワークに臨む

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調

作品73「皇帝」

フランツ・シュミット／交響曲 第4番 ハ長調

指揮：ファビオ・ルイーザ

ピアノ：イェフィム・プロンフマン



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2025

10

October

第2046回

10/18

土 6:00pm

10/19

日 2:00pm

マエストロが祈りを込めて贈る 2つの合唱付き交響曲

ストラヴィンスキー／詩篇交響曲

メンデルスゾーン／交響曲 第2番 変ロ長調 作品52「讃歌」*

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット

ソプラノ：クリスティーナ・ランツハマー*

メゾ・ソプラノ：マリイ・ヘンリエッテ・ラインホルト*

テノール：ティルマン・リヒディ*

合唱：スウェーデン放送合唱団



一般	ユースチケット
S ¥15,000	S ¥7,000
A ¥12,500	A ¥6,000
B ¥10,000	B ¥5,000
C ¥8,000	C ¥4,000
D ¥6,500	D ¥3,000
E ¥4,500	E ¥2,000

2025

11

November

第2048回

11/8

土 6:00pm

11/9

日 2:00pm

デュトワ、十八番のメシアンとホルストを携え
8年振りに定期公演に登場

メシアン／神の現存の3つの小典礼*

ホルスト／組曲「惑星」作品32

指揮：シャルル・デュトワ

ピアノ：小菅 優*

オンド・マルトノ：大矢素子*

女声合唱：東京オペラシンガーズ



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

Winter

2025

12

December

第2051回

11/29

土 6:00pm

11/30

日 2:00pm

《人魚姫》を貫く
自己喪失と再生の物語

シヨスタコフ・ヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調

作品77

ツェムリンスキー／交響詩「人魚姫」

指揮：ファビオ・ルイーザ

ヴァイオリン：レオニダス・カヴァコス



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

※12月定期公演Aプログラムは
11月に開催いたします。

2026
01 January
第2054回
1/17 土 6:00pm
1/18 日 2:00pm

ソヒエフ、満を持して
N響でマーラーを初披露
マーラー／交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」
指揮:トゥガン・ソヒエフ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026
02 February
第2057回
2/7 土 6:00pm
2/8 日 2:00pm

名門歌劇場で存在感を放つ ジョルダンのワーグナー
シューマン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」
ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」
—「ジークフリートのラインの旅」
「ジークフリートの葬送行進曲」
「ブリュンヒルデの自己犠牲」*
指揮:フィリップ・ジョルダン
ソプラノ:タマラ・ウィルソン*



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2026
04 April
第2060回
4/11 土 6:00pm
4/12 日 2:00pm

ブルックナーの絶筆に
孤高の中に屹立する精神を見る
ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1
ブルックナー／交響曲 第9番 二短調
指揮:ファビオ・ルイージ
チェロ:ヤン・フォォーグラ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026
05 May
第2064回
5/23 土 6:00pm
5/24 日 2:00pm

ドイツ音楽の深い洞窟者と奏でるブラームス・プログラム
ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲
イ短調 作品102
ブラームス(シェーンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番
ト短調 作品25
指揮:ミハエル・ザンデルリンク
ヴァイオリン:クリスティアン・テツラフ チェロ:ターニャ・テツラフ



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2026
06 June
第2067回
6/13 土 6:00pm
6/14 日 2:00pm

ニューヨーク・フィルを率いたズヴェーデン
待望のN響初登場
ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスター・ジンガー」
前奏曲
モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453
バルトーク／管弦楽のための協奏曲
指揮:ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン
ピアノ:コンラッド・タオ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥76,500	A ¥65,025	B ¥49,725	C ¥41,310	D ¥32,895
	ユースチケット	S ¥38,250	A ¥30,600	B ¥23,715	C ¥19,503	D ¥11,475
シーズン会員券(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029

「音楽ははかなく消えゆくもの」ではなくて

西川彰一 | NHK交響楽団 芸術主幹 ※B・Cプログラムの同項も執筆

1回のコンサートを作るには、どれくらいの時間と労力が注がれるのでしょうか。構想がスタートするのはおよそ3年前、そこから膨大なプロセスを経て当日を迎えますが、それはあくまで裏方の話であって、ステージに立つ奏者一人ひとりの準備、さらには技量を身につけるための修行期間まで含めれば、その総和は計り知れないものになるでしょう。毎度の本番が終わるたび、私たちは安堵あんどの思いとともに「もう終わってしまった」という一抹の寂しさを感じるようになるのです。

海の泡と消える人魚姫や、ブリュンヒルデの自己犠牲によって燃え尽きるヴァルハラワールハラの城のように、どんなにすばらしい音楽も、奏でられた瞬間に消え去っていきます。そのはかなさこそが、音楽という芸術の魅力でもあるのですが、では消えてしまえばそれで終わりかと言うと、決してそうではないはずです。

ツェムリンスキー《人魚姫》(12月)のフィナーレでは、希望に満ちた転調により永遠の命の誕生が予感されますし、〈ブリュンヒルデの自己犠牲〉(2月)のあとには「愛の救済の動機」が鳴り響き、世界の再生が暗示されます。音はその場でなくなっても、聴いた人の心にいつまでも何かが残る、そのようなコンサートをお届けできればと思います。

さてAプログラムは2025–26シーズンも、N響得意のドイツ音楽、中でも20世紀前半に書かれた作品が中心です。ルイーゼをはじめとする常連の指揮者たちに加え、ジョルダン(2月)やヴァン・ズヴェーデン(6月)など、世界的なマエストロの初登場にもご注目いただきたいと思います。

首席指揮者として4年目を迎えるルイーゼは、ラ

イフワークであるフランツ・シュミットシュミットに取り組みます。《交響曲第4番》は、夭折した娘への呼びかけとも言われる悲痛なトランペット・ソロで始まりですが、同じメロディが曲の最後に再び鳴り響くとき、それは浄化された魂の比喩として聞こえてくるはずで(9月)。同じくルイーゼが指揮するブルックナー《交響曲第9番》は、未完で終わったために却って、宇宙的な広がりを獲得するに至りました(4月)。これらの曲に接した私たちは“永遠”について思いを巡らせることになるでしょう。

“再生”と言えば、シュミットの同時代人であるシェーンベルクは《ピアノ四重奏曲第1番》において、ブラームスの古典的名作を20世紀のスタイルで仕立て直し(5月)、晩年のバルトークは《管弦楽のための協奏曲》で、衰えかけていた創作意欲をよみがえらせます(6月)。

マーラーの《交響曲第6番「悲劇的」》では、終楽章のハンマーが“英雄の闘争”に致命的な打撃を加えますが、そうした作品のメッセージ性とは逆に、運命に抗おうとする作曲家の強い意志は、この曲に不朽の生命を与えることになりました(1月)。

ブロムシュテットとデュトワ、2人の巨匠が指揮する《詩篇交響曲》と《讃歌》(10月)、《神の現存の3つの小典礼》(11月)は、宗教的なテキストに基づく作品で、ここでの音楽は、はかなく消えゆくものとは対極の、確かな実体を備えた存在として姿を現します。それは巨匠たちの長いキャリアに裏打ちされた解釈と相まって、私たちに限りない喜びと感動をもたらしてくれるでしょう。

2025-26シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

B

豊かな響きのサントリーホールで味わう名匠たちの音作り。
魅力あふれるソリストたちとの共演にも心躍る。

サントリーホール

木 7:00pm 金 7:00pm

Autumn

2025

09 September

第2043回

9/18 木 7:00pm

9/19 金 7:00pm

ルイージが浮き彫りにする
《イタリア》に刻まれた「光と陰」
武満 徹 / 3つの映画音楽
ベートーヴェン / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61
メンデルスゾーン / 交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」
指揮: ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン: マリア・ドゥエニャス



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025

10 October

第2045回

10/9 木 7:00pm

10/10 金 7:00pm

プロムシュテットが慈しむ
気品に満ちた北欧の傑作たち
グリーグ / 組曲「ホルベアの時代から」作品40
ニルセン / フルート協奏曲
シベリウス / 交響曲 第5番 変ホ長調 作品82
指揮: ヘルベルト・プロムシュテット
フルート: セバスティアン・ジャコー



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2025

11 November

第2050回

11/20 木 7:00pm

11/21 金 7:00pm

大きく羽ばたく俊英が
得意のドイツプログラムで再登場
シューマン / 「マンフレッド」序曲
モーツァルト / ピアノ協奏曲 第25番 八長調 K. 503
R. シュトラウス / 交響詩「英雄の生涯」作品40
指揮: ラファエル・バヤーレ
ピアノ: エマニュエル・アックス



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

Winter

2025

12 December

第2052回

12/4 木 7:00pm

12/5 金 7:00pm

オーケストラと大オルガンが
名ホールで絢爛に双鳴するひととき
藤倉 大 / 管弦楽のためのオーシャン・ブレイカー
～ピエール・ブレーズの思い出に～(2025)
[NHK交響楽団委嘱作品 / 世界初演]
フランク / 交響的変奏曲*
サン＝サーンス / 交響曲 第3番 八短調 作品78「オルガンつき」
指揮: ファビオ・ルイージ ピアノ: トム・ボロー*



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2026
01 January
第2056回
1/29 木 7:00pm
1/30 金 7:00pm

お家芸のプロコフィエフ《第5番》を
13年振りにN響で指揮
ムソルグスキー(ショスタコフヴィチ編) /
歌劇「ホヴァンシチナ」—前奏曲「モスクワ川」の夜明け」
ショスタコフヴィチ/ピアノ協奏曲 第2番 へ長調 作品102
プロコフィエフ/交響曲 第5番 変ロ長調 作品100
指揮:トウガン・ソヒエフ
ピアノ:松田華音



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2026
02 February
第2059回
2/19 木 7:00pm
2/20 金 7:00pm

期待の再登場! フルシヤの
ドヴォルザーク & ブラームス
ドヴォルザーク/ヴァイオリン協奏曲 イ長調 作品53
ブラームス/セレナード 第1番 二長調 作品11
指揮:ヤクブ・フルシヤ
ヴァイオリン:ヨゼフ・シムパチェク



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

Spring

2026
04 April
第2061回
4/16 木 7:00pm
4/17 金 7:00pm

モーツァルトとマーラーに通底する
絶対美の深淵に触れる
モーツァルト/クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622
マーラー/交響曲 第5番 嬰ハ短調
指揮:ファビオ・ルイーゾ
クラリネット:松本健司(N響首席クラリネット奏者)



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2026
05 May
第2063回
5/14 木 7:00pm
5/15 金 7:00pm

「ヤマカズ21」が振る元祖ヤマカズ
そして1930年代日独作品の諸相
山田一雄/小交響詩「若者のうたへる歌」
ハルトマン/葬送協奏曲*
須賀田磯太郎/交響的序曲 作品6
ヒンデミット/交響曲「画家マチス」
指揮:山田和樹 ヴァイオリン:キム・スーヤン*



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2026
06 June
第2066回
6/4 木 7:00pm
6/5 金 7:00pm

ドゥネーヴが編む「夏」と「海」をめぐるフランス名曲選
オネゲル/交響詩「夏の牧歌」
ベルリオーズ/歌曲集「夏の夜」作品7
イベール/寄港地
ドビュッソン/交響詩「海」
指揮:ステファヌ・ドゥネーヴ
メゾ・ソプラノ:ガエル・アルケーズ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥91,800	A ¥76,500	B ¥61,200	C ¥49,725	D ¥42,075
	ユースチケット	S ¥45,900	A ¥38,250	B ¥30,600	C ¥24,858	D ¥21,033

* Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません。

個性的なアーティストたちがいざなう、未知の世界への旅

19世紀ロマン派の粹とも言える、ベルリオズの《夏の夜》。6曲からなる歌曲集を締めくくる〈未知の島〉では、知らない土地への憧れが歌われます。

「お嬢さん、どこに行きたいのですか？」

「誰も訪ねたことのない愛の国へ」

初めて耳にする音楽に魂を奪われたり、聴きなじんだ作品の新しい解釈に出会ったり。音楽もしばしば、私たちを今まで知らなかった世界へと導いてくれます。そんな一期一会の体験ができることこそ、コンサートに通う大きな楽しみではないかと思えます。

個性的なソリストが月替わりで登場するBプログラムを通じて、皆様にそれぞれの〈未知の島〉が見つかることを願っています。

首席指揮者ルイーゾとともにベートーヴェンの《ヴァイオリン協奏曲》を演奏するのは、スペインの若手マリア・ドウエニャスです。2024年のドイツ・カンマーフィル来日公演でも、急な代役に起用されてこの曲を弾きましたが、端正でありながら、同時にとても情熱的な演奏は、過去のどんな名人たちとも違って、作品の新しい魅力に気づかせてくれるものでした。異なる共演者を得て、新たな味わいが生まれることになるでしょう。(9月)

ドヴォルザークの《ヴァイオリン協奏曲》も、このジャンルを代表する名曲のひとつです。指揮のヤクブ・フルジャとソリストのヨゼフ・シュバチェクは、どちらもチェコ出身。民族色あふれる祖国の音楽を情感豊かに奏でるだけでなく、そこに現代的で切れ味鋭い表現も加味されるのではないかと予想します。(2月)

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団の第1コンサートマスター、キム・スーヤンが選んだのは、ナチス政権下のドイツで書かれたハルトマン《葬送協奏

曲》。苦悩と悲しみを宿すこの曲は、当時の社会に対する切実な抵抗のメッセージでした。山田一雄やヒンデミットなど、同時代の作品を組み合わせます。山田和樹の思いが詰まったプログラムです。(5月)

ピアノでは、エマニュエル・アックスが23年ぶりに登場します。モーツァルトという古典を今の時代にどう弾くか、半世紀以上のキャリアを持つ大ベテランによって、ひとつの規範が示されるでしょう。(11月)

翌月は対照的に、ルイーゾが推薦する2000年生まれの新星、トム・ボロー。実演ではめったに聴けない名曲、フランクの《交響的変奏曲》にチャレンジします。この回のオープニングは、現代屈指の作曲家・藤倉大が、尊敬するブーレーズの生誕100年に寄せる新作です。委嘱曲の世界初演にご期待ください。(12月)

ピアニストのもうひとり、このところ定期的に共演している松田華音。名匠ソヒエフのサポートを得ながら、ロシア仕込みのスケールの大きさ、深い叙情性が、ショスタコーヴィチ《ピアノ協奏曲第2番》で存分に発揮されるでしょう。(1月)

さらには話題のフルート奏者セバスティアン・ジャコー(10月)、N響首席クラリネット奏者の松本健司(4月)がソリストとして登場。

最初に触れた《夏の夜》を歌うのは、一流オペラハウスで活躍を続けるメゾ・ソプラノのガエル・アルケーズです。海にまつわるイベールやドビュッシーの名曲とともに、ステファヌ・ドゥナーヴが贈るフランス・プログラムで、〈未知の島〉への航海をお楽しみ下さい。(6月)

2025-26シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

C

豪華なマエストロ、ソリストたちが
王道の名曲でその個性を輝かせる。
今もっとも旬なアーティストの登場にも期待。

NHKホール

金 7:00pm 土 2:00pm

Autumn

2025

09

September

欧米メジャーオーケを席卷する
情熱の指揮者が、誓初登場

第2044回

9/26 金 7:00pm

マーラー／こどもの不思議な角笛「ラインの伝説」*
「トランペットが美しく鳴り響くところ」*「浮世の生活」*
「天上の生活」*「原光」*

9/27 土 2:00pm

シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22
指揮：ライアン・バンクロフト
バリトン：トマス・ハンブソン*



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2025

10

October

巨匠と名ピアニストの飽くなき探究心が拓く
新たなブラームスの地平

第2047回

10/24 金 7:00pm

ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83
ブラームス／交響曲 第3番 へ長調 作品90

10/25 土 2:00pm

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
ピアノ：レイフ・オヴェ・アンネス



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

2025

11

November

当世随一の解釈者のタクトでラヴェルを味わい尽くす

ラヴェル生誕150年

第2049回

11/14 金 7:00pm

ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ
ラヴェル／組曲「クープランの墓」
ラヴェル／バレエ音楽「ダフニスとクロエ」(全曲)*

11/15 土 2:00pm

指揮：シャルル・デュワ
合唱：二期会合唱団*



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

Winter

2025

12

December

ニルセン最高峰の交響曲を
ルイージ人魂の指揮で味わう

第2053回

12/12 金 7:00pm

ショパン／ピアノ協奏曲 第1番 小短調 作品11
または第2番 へ短調 作品21

12/13 土 2:00pm

ニルセン／交響曲 第4番 作品29「不滅」
指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：第19回ショパン国際ピアノコンクール優勝者



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026
01 January
第2055回
1/23 金 7:00pm
1/24 土 2:00pm

夢幻と高揚に誘う フランス・ロシアのナラティブな作品たち

ドビュッシー / 牧神の午後への前奏曲
デュティユー / チェロ協奏曲「遙かなる遠い国へ」
リムスキー・コルサコフ / 組曲「サルタン皇帝の物語」作品57
ストラヴィンスキー / バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)
指揮: トゥガン・ソヒエフ
チェロ: 上野通明



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026
02 February
第2058回
2/13 金 7:00pm
2/14 土 2:00pm

創立100年に問う
N響設立者近衛の《展覧会の絵》
コダーイ / ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲
フンメル / トランペット協奏曲 ホ長調
ムソルグスキー (近衛秀磨編) / 組曲「展覧会の絵」
指揮: ゲルゲイ・マダラシュ
トランペット: 菊本和昭 (N響首席トランペット奏者)



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2026
04 April
第2062回
4/24 金 7:00pm
4/25 土 2:00pm

下野がナビゲートする20世紀日本名曲の旅
外山雄三 / 管弦楽のためのディヴェルティメント
プロコフィエフ / ピアノ協奏曲 第3番 八長調 作品26
伊福部 昭 / 交響譚詩
ブリテン / 歌劇「ピーター・グライムズ」
—「4つの海の間奏曲」作品33a
指揮: 下野竜也 ピアノ: 反田恭平



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2026
05 May
第2065回
5/29 金 7:00pm
5/30 土 2:00pm

旧ソ連・ラトビア出身の気鋭が解き明かす
謎多きショスタコーヴィチ《第1番》の真価
ヴァスクス / NHK交響楽団ほか国際共同委嘱作品
[タイトル未定 / 日本初演]
ショスタコーヴィチ / 交響曲 第4番 八短調 作品43
指揮: アンドリス・ボエフ



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2026
06 June
第2068回
6/19 金 7:00pm
6/20 土 2:00pm

尾高のリズムと相性抜群の北国の名作たち
HIMARI、N響定期に初登場
シベリウス / アンダンテ・フェスティヴォ
シベリウス / ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47
ラフマニノフ / 交響曲 第3番 イ短調 作品44
指揮: 尾高忠明
ヴァイオリン: HIMARI



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥76,500	A ¥65,025	B ¥49,725	C ¥41,310	D ¥32,895
	ユースチケット	S ¥38,250	A ¥30,600	B ¥23,715	C ¥19,503	D ¥11,475
シーズン会員券(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029

過ぎ去りしものたちとの対話 ～創立100年 過去を見つめ 未来を創る～

ムソルグスキーの《展覧会の絵》に〈カタコンブ〉と題された1曲があります。ローマの地下墓地を描いた絵画に靈感を得たものですが、神秘的なこの場面の音楽は、組曲全体の中でとりわけ異彩を放ち、聴き手に特別な印象を与えます。そのあとに続く〈死者とともに〉では、弦のトレモロに導かれて、壁面に埋め尽くされた頭蓋骨に徐々にスポットライトが当たり、死者たちとの魂の交感が始まるかのようです。

思えばクラシック音楽のコンサートそれ自体も「死者たちとの魂の交感」に近いかもしれません。紙に書かれた音符を介して、はるか昔の作品が目の前によみがえり、過去の作曲家と私たちとの間で、生き生きとした対話が始まるのです。

目先の心地よさだけを求めがちな昨今、過去との対話を繰り返しながら、その叢智を生かし、「死者とともに」未来を創り上げていく姿勢は、音楽に限らず、今後あらゆるジャンルでますます大切になってくのではないかと思います。

2026年に創立100年を迎えるN響も、2つのプログラムを通じて、これまでの歩みを振り返ることにしました。

ひとつは先に触れた《展覧会の絵》。今回は有名なラヴェル版ではなく、楽団設立の立役者である近衛秀麿の編曲版を92年ぶりに取り上げて、草創期の苦勞に思いを馳せまします。(2月)

もうひとつは、戦時中から高度成長期にかけての歴史に関わりがあるもの。敵性音楽がタブー視された時代に書かれた伊福部昭の《交響譚詩》と、東京五輪の年の海外ツアーで披露された外山雄三の《管弦楽のためのディヴェルティメント》です。かつてN響の指揮台に立ったブリテンの作品も合わせて演奏します。(4月)

「過去との対話」と言えば、神話や伝承と結びついた創作活動も、その一形態と言えるでしょう。ドイツ民謡詩集に材をとったマーラー《こどもの不思議な角笛》や、フィンランドの叙事詩に基づくシベリウス《4つの伝説》は、その代表的な例です。マーラーを歌うトマス・ハンブソンは、往年の桂冠名誉指揮者サヴァリッシュが好んで起用した名バリトンですが、70歳を記念して、26年の時をまたいで再共演が実現します。(9月)

いしえのスペイン宮廷への追憶を込めた《亡き王女のためのパヴァーヌ》、同じく古風な舞曲のスタイルを用いながら、戦死した友人たちをしのぶ《クーブランの墓》、そして古代ギリシャが舞台の《ダフニスとクロエ》。ラヴェルの3作品でも、過ぎ去った時へのまなざしが主要なテーマになっています。(11月)

ソヒエフが指揮する《サルタン皇帝の物語》と《火の鳥》は、ロシア民話の要素を取り入れた劇場音楽。一方、ボードレールの詩に靈感を得たデュティユー《遥かなる遠い国へ》では、時空を超えた理想郷への憧れが歌われます。(1月)

過去に目を向けることで見えてくる、永遠に変わらないものとは何か。

《交響曲第4番「不滅」》を書いたニルセンにとって、それは絶えることのない生命力と創造のエネルギーであり(12月)、ラトヴィアの現代作曲家ヴァスクスにとっては、自然への賛美、祖国への深い愛情でした(5月)。

N響が先人たちと磨き上げてきたドイツや北欧・ロシア音楽の伝統(10月、6月)もまた、次の100年へと引き継がれていくでしょう。

チケットのご案内(定期公演 2025年9月～2026年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2025年7月6日[日](定期会員先行)／2025年7月13日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2025年10月14日[火](定期会員先行)／2025年10月17日[金](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2026年2月10日[火](定期会員先行)／2026年2月14日[土](一般)

料金(税込)

年間会員券(9回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
Cプログラム	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)

シーズン会員券(3回)		S	A	B	C	D
Aプログラム	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
Cプログラム	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2025年7月23日[水](定期会員先行)／2025年7月27日[日](一般)
	12・1・2月	2025年10月22日[水](定期会員先行)／2025年10月26日[日](一般)
	4・5・6月	2026年2月19日[木](定期会員先行)／2026年2月23日[月・祝](一般)

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円～で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

WEBチケットN響
<https://nhkso.pia.jp>



お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502
営業時間：10:00am～5:00pm
定休日：土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

「N響100年記念 個人サポーター」の募集について



NHK交響楽団は、1926年10月5日に「新交響楽団」の名称で結成されて以来、今日に至るまで、世界一流の指揮者やソリストたちと数多く共演を重ね、国内最高峰のオーケストラとしてたくさんのファンの皆様に愛されてまいりました。

そしてついに、数々の名演に彩られたその歴史は、2026年に「創立100年」という大きな節目を迎えます。2026年1月からのこの特別な1年に、N響は記念となる公演の数々をはじめ、さまざまな記念事業を行う予定です。

多彩な取り組みを通じて、長い歴史を支え応援していただいたすべての方々への感謝と「次の100年」に向けた私たちからのメッセージをより多くの皆様にお届けしたく、これらの活動を応援してくださる「N響100年記念 個人サポーター」を広く募集し、歴史の1ページにお名前を刻ませていただきたいと思います。

ぜひ、皆様の温かい応援をお願い申し上げます。

募集期間 2025年4月～10月

寄付額 1口10万円(最大5口まで)

※ お申し込み方法など詳しくは、N響ホームページをご覧ください。

※ N響は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

※ 「N響100年記念事業」の概要は、2025年秋ごろの発表を予定しています。

世界をつなぐ、あたらしい空へ。



Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER



www.ana.co.jp



私と、響き合う。

「ほしい音は、私が表現したいことをかなえてくれる音。」
ヤマハが新しいCFXに込めた設計思想「ユニボディコンセプト」は、
すべてが、ピアニストの想いを実現するためにあります。
ピアノ自身が弾く者の意思を感じているかのように反応し、
演奏者と楽器が一体となって響き合うことで生まれた音が、
コンサートホールの空間を満たしていく。
これこそ、ヤマハが追い求めてきた瞬間に他なりません。
人の心を動かす音は、ピアノだけが奏でるものではなく、
ピアニストとともに作りあげていくものだから。

CFX

Yamaha Concert Grand Piano

旬のピアニスト情報が満載

Pianist Lounge.

<https://jp.yamaha.com/sp/pianist-lounge/>

ヤマハ株式会社



この活動を広めるために作成した
ロゴマークです

文化芸術・集客エンタメをSDGsの 18番目の目標に

SDGsの17項目には、文化や芸術、エンタテインメントに関する目標が語られていません。ぴあでは、世界の多様な文化の共存・共生こそが、サステナビリティの根源にあるはずだと考え、その18番目の目標として、文化芸術、エンタテインメント、スポーツの必要性を掲げ、心豊かな暮らしと社会のために、あらゆる人々の文化的活動を支援することを提言します。これらは、私たちにとって“なくてはならないもの”であり、同時に、人々の相互理解やコミュニケーションを深め、差別のない社会を作り、世界平和に向けた共感への近道になると考えています。この活動への、皆様からご支援をお願いいたします。

ひとりひとりが生き生きと[※]

ぴあ

※1998年に発表した、
当社の企業理念です



PROGRAM

A

第2034回

NHKホール

4/12 [土] 6:00pm

4/13 [日] 2:00pm

指揮

パーヴォ・ヤルヴィ

ヴァイオラ

アントワーン・タメスティ*

コンサートマスター

長原幸太

ベルリオーズ

交響曲「イタリアのハロルド」*[43']

- I 山の中のハロルド。憂うつと幸福と歓喜の情景
- II 夜の祈りを歌う巡礼の行進
- III アブルッチの山人が愛人に寄せるセレナード
- IV 山賊の酒盛り。前の情景の思い出

— 休憩 (20分) —

プロコフィエフ

交響曲 第4番 ハ長調 作品112

(改訂版/1947年)[38']

- I アンダンテ、アレグロ・エロイーコ
- II アンダンテ・トランクイロ
- III モデラート、クワジ・アレグレット
- IV アレグロ・リソルテ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは55ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

パーヴォ・ヤルヴィ(指揮)



パーヴォ・ヤルヴィは1962年にエストニア共和国(当時はソ連領)の首都タリンで生まれた。父は名指揮者のネーメ・ヤルヴィである。生地の音楽学校で指揮と打楽器を勉強したあと、アメリカに渡ってカーティス音楽院で指揮を学び、さらにロサンゼルスではレナード・バーンスタインの薫陶を受けている。これまでスウェーデンのマルメ交響楽団、シンシナティ交響楽団、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団、hr交響楽団(フランクフルト放送交響楽団)、パリ管弦楽団のシェフを歴任、このうちドイツ・カンマーフィルとは2004年以來今日までの長きにわたり継続して芸術監督の地位にある。2015年から2022年まではN響の首席指揮者を務めた(現在は名誉指揮者)。また2019年にはチューリヒ・トーンハレ管弦楽団の音楽監督に就任して今に至っている。

N響とはこれまで幅広いレパートリーで名演を披露してきたが、なかでも近現代作品において特に優れた手腕を発揮し、研ぎ澄まされた感性と綿密な音楽作りが結び付いた目の覚めるような演奏を聴かせてきた。今回もプロコフィエフ、ストラヴィンスキー、ブリテンの作品で彼のそうした美質が存分に生かされるに違いない。一方でベルリオーズでも彼らしいシャープで直截なアプローチが作品にフレッシュな息吹をもたらしてくれることだろう。

[寺西基之／音楽評論家]

アントワヌ・タメスティ(ヴィオラ)



ソロ、アンサンブルの領域を自在に行き来する現代最高峰のヴィオリスト、アントワヌ・タメスティがNHK交響楽団と初めて共演する。しかも深い信頼関係で結ばれているパーヴォ・ヤルヴィとの共演だ。2人はhr交響楽団(フランクフルト放送交響楽団)、パリ管弦楽団、チューリヒ・トーンハレ管弦楽団で顔をあわせている。ウィーン楽友協会でのチューリヒ・トーンハレ管弦楽団との《イタリアのハロルド》も賞賛を博した。

1979年パリ生まれ。パリ国立高等音楽院、米イェール大学などで学んだあと、英ウィリアム・プリムローズ、ARDミュンヘンほか、4つの国際音楽コンクールで第1位に輝く。バロックから現代音楽までレパートリーは幅広く、ティエリー・エスケシュ、ブルーノ・マントヴァーニ、オルガ・ノイヴィルト作品の世界初演も手がけたほか、2023年まで「ヴィオラ・スペース」(今井信子らが1992年に創設した音楽祭)のプログラミング・ディレクターを務めた。トップクラスの指揮者、オーケストラ、アーティストとの共演は枚挙にいとまがない。使用楽器のひとつはストラディヴァリが1672年に製作した最初のヴィオラ、通称“グスタフ・マーラー”(Habisreutinger財団貸与)。

[奥田佳道／音楽評論家]

フランス・ロマン派の管弦楽のパイオニアとして標題音楽を発展させ、固定楽想を提唱したエクトル・ベルリオーズ(1803~1869)と、ロシア・アヴァンギャルドとして独自の変則音で世界的名声を獲得したセルゲイ・プロコフィエフ(1891~1953)。本日はパーヴォ・ヤルヴィの指揮により、世紀を超える音楽の歴史をパノラマビューのようにダイナミックな音響で体感できるプログラムを楽しみたい。

ベルリオーズ

交響曲「イタリアのハロルド」

ベルリオーズの回想録によると、本作は《幻想交響曲》に感銘を受けたヴァイオリニストのパガニーニの依頼で着手された。当初、合唱付き交響曲として作られていたが、パガニーニの失望により創作中止となり、最終的には、詩人バイロンの長編物語詩『チャイルド・ハロルドの巡礼』に基づくヴィオラ独奏付き交響曲となった。主人公ハロルドのキャラクターを表す固定楽想が多様な変化をすることで自然の風景を描写し、ベートーヴェンの《交響曲第9番》と同様に、最終楽章における前楽章の主題の再現で音楽的に統一される。

第1楽章〈山の中のハロルド。憂うつと幸福と歓喜の情景〉 アダージョ、ト長調、4分の3拍子、ソナタ形式。序奏部は弦楽器と管楽器の並置で、異なる2つの半音階的主題の二重フーガ。固定楽想のハロルドの主題は木管楽器で短調によって、のちにハーブの分散和音を伴って独奏ヴィオラで長調によって提示される。主部からはアレグロとなり、管弦楽と独奏ヴィオラの対話的テーマでハロルドの幸福感を表出する。情景変化を楽器の交代による主題の音域上昇で表現する方法、山の描写を音量を抑えての響きの遅延によって表す手法、物理的な距離感をリズムの「ずれ」の効果で示すこと、同一フレーズの異なる楽器間での分割的な提示など、ベルリオーズ特有の技法が確認できる。

第2楽章〈夜の祈りを歌う巡礼の行進〉 アレグレット、ホ長調、4分の2拍子、3部形式。巡礼者の行進や荘厳な賛歌が音楽で表現される。ハーブおよび弦楽器による序奏後、ヴァイオリンで「歌(canto)」と指示された主題を提示する。持続音の間に他の楽器群で3連音符の同音反復がある。独奏ヴィオラによるハロルドの固定楽想は歌(canto)の主題とも組み合わせる。調性変化は著しく、1音ずつの段階的な転調も含む。中間部でのヴィオラの分散和音は和声進行を際立たせる。後半では木管楽器が歌(canto)の主題を示す。特に、音楽的に重きを置きたい音を、強さではなく、音の持続や間の取り方で強調する作曲技法は、ベルリオーズの音楽的な特徴のひとつである。

第3楽章〈アブルッチの山人が愛人に寄せるセレナード〉 アレグロ・アッサイ、ハ長調、

8分の6拍子。3部形式。舞踏的かつ牧歌的で、複雑な旋律ラインよりもリズムが中心となり、2つの主題と独奏ヴィオラの固定楽想で発展する。ピッコロの第1主題におけるサルタレロの跳躍的なダンスのリズムに対し、セレナーデの第2主題は優美なレガートで音楽的なコントラストを表現する。コーダでは他楽章の主題、ヴァイオリンとチェロの持続音、ヴィオラによるサルタレロのリズム、独奏ヴィオラのセレナーデ主題、フルートとハーブのハーモニクス(倍音奏法)による固定楽想という複数の音楽的な要素が結集する。

第4楽章〈山賊の酒盛り。前の情景の思い出〉 アレグロ・フレネティコ、ト短調、2分の2拍子、展開部のないソナタ形式。山賊の狂乱騒ぎを表現。最終楽章での前3楽章の主題引用は、ベートーヴェンの作曲技法とも類似する。ロンドの役割の山賊の主題と交錯しながら、ト短調で第1楽章、第2楽章、第3楽章の主題が回想されることで、ハロルドの多彩な要素が表現される。急速なテンポと調性変化で進み、最終楽章における2つの主題はリズムの「ずれ」の効果を伴って、楽曲進行とともに対比的かつ複雑に発展し、独奏ヴィオラの固定楽想の主題も崩れ、壮大なコーダを迎える。

作曲年代	1834年
初演	1834年11月23日、パリ、ナルシス・ジラル（指揮）、クレティアン・ユラン（ヴィオラ独奏）、パリ音楽院管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット4、ホルン4、トランペット2、コルネット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、シンバル、トライアングル、タンブリン、ハーブ1、弦楽(第4楽章の舞台裏でのヴァイオリン2本とチェロ1本によるバンダは舞台上で演奏予定)、ヴィオラ・ソロ

プロコフィエフ

交響曲 第4番 ハ長調 作品112(改訂版／1947年)

プロコフィエフは、生涯に7つの交響曲を残したが、《交響曲第4番》は、ボストン交響楽団の創立50周年記念のために委嘱された。パリ時代の1929年から1930年にかけて初版(作品47)が創作された。《交響曲第2番》《第3番》と同様、初演は成功とは言い難いもので、《交響曲第5番》と《第6番》を創作後の1947年に、根本的かつ拡張的に作品112として改訂。作曲家自身は本作を「実質的に《第7番》」とすら言及した。スターリンの圧政のためか、この改訂版は作曲者の存命中に公開では初演されず、没後の1957年にモスクワで公開初演された。古典的な形式で書かれ、バレエ音楽《道楽息子》からの主題の引用や新たな旋律素材で構成される。

第1楽章 アンダンテ、アレグロ・エロイーコ、ハ長調、4分の3拍子、ソナタ形式。管楽器による^{きつそう}颯爽とした序奏主題の提示後、弦楽器の急速な伴奏により、英雄的な楽想の主部に突入する。第1主題は勇壮で跳躍的な行進曲、第2主題は木管楽器で牧歌的に提示される。展開部は第1主題のトッカータ的な伴奏が際立つロンド風の形式で、序

奏、第1主題、第2主題の変形などで構成される。主題の転換はあるが、組み合わせの技法が見られないという点は、他の交響曲のソナタ楽章とも共通する。再現部は繰り返しの省略により短縮される。

第2楽章 アンダンテ・トランクイロ、ハ長調、4分の4拍子、複合3部形式。穏やかな弦楽器の伴奏に先導されて、フルートで清澄な主題が提示されたあと、弦楽器へと引き継がれる。ピアノとハープが規則的に明確なリズムを刻み、クラリネットの東洋的な旋律が嬰ト短調で提示される。冒頭主題はさらに変ホ長調で再現されて、カノン風な模倣がなされる。ロ長調やト長調などへも転調し、和声的にも多彩である。第1楽章の序奏の主題が回想され、終結部で冒頭主題が重厚に再現される。急な転調や音の跳躍などプロコフィエフの音楽的な仕掛けが顕著に確認できる。

第3楽章 モデラート、クワジ・アレグレット、ロ短調、4分の2拍子、 Rond形式風の複合3部形式。序奏およびコーダ以外はバレエ音楽《道楽息子》第3曲〈美女〉の引用である。ターンする旋律やリズムの動きで東洋的なダンスが表現される。序奏からメランコリックな第1主題の断片がさまざまな楽器間を移動して繰り返される。Rond主題は初版と同時期に創作された《6つの小品》第2曲〈Rond〉(作品52-2)とも同一である。ワンフレーズ内で長調と短調へ交互に転調する点が特徴。第2主題で叙情的な旋律ライン、中間部で第1主題の変形が提示され、再現部では第1主題が再び現れる。

第4楽章 アレグロ・リソルト、ハ長調、2分の2拍子、Rond形式。4種類の異なるRond主題で構成されるが、2つの主要主題に音楽的な重点が置かれる。前半では明瞭なRond主題とその変奏が提示され、3部形式を持つ中間部で主題が反復および発展される。後半では第3楽章の第2主題の引用、Rond主題の対位法的な手法を経て、コーダで第1楽章の序奏主題が引用される。前楽章の主題を引用することで音楽的な関連性を高める作曲技法は、ベートーヴェンやベルリオーズとも共通する。調性は主調のハ長調から全音階的体系で拡張される。

作曲年代	[初版(作品47)]1930年 [改訂版(作品112)]1947年
初演	[放送初演]1950年3月11日、ロンドン、ボルト指揮、BBC交響楽団 [公開初演]1957年1月5日、モスクワ、ロジェストヴェンスキー指揮、ソヴィエト国立交響楽団
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タンブリン、ウッドブロック、ハープ1、ピアノ、弦楽

ベルリオーズの回想録によると、《幻想交響曲》に感激したパガニーニから、ヴィオラの名技を活かした新曲をと依頼されたのが1833年。喜び勇んで作曲を始めたものの、パガニーニにふさわしいヴィオラ・パートを書くことができず依頼は白紙に。心機一転、詩人バイロンの物語詩に材をとり、ヴィオラを主人公に見立てて《イタリアのハロルド》を完成させた。その後この曲を聴いたパガニーニは真価を認め、ベルリオーズに大金を贈ったという。

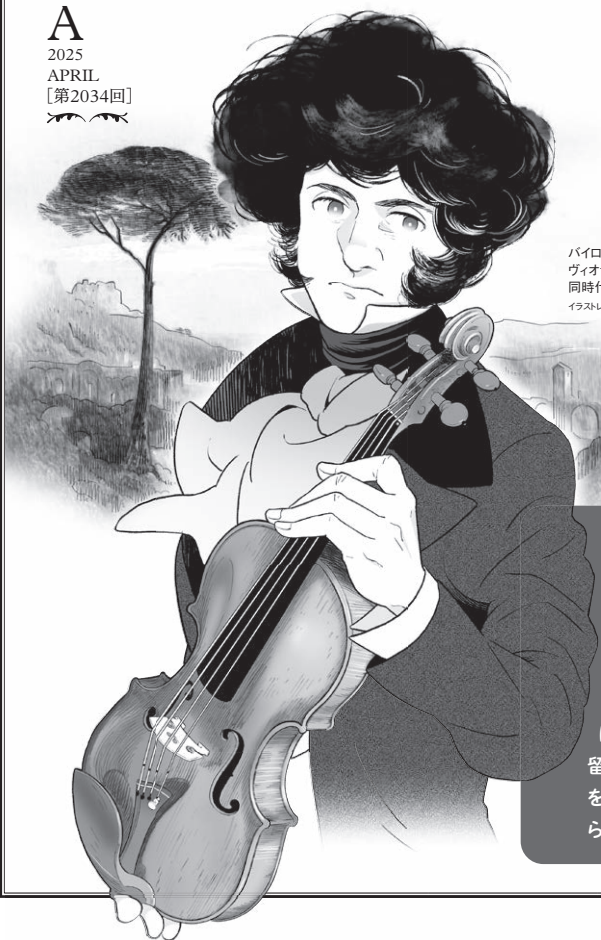
音楽でドラマを描いた標題音楽のパイオニア

エクトル・ベルリオーズ

Hector Berlioz (1803–1869)

A

2025
APRIL
[第2034回]



バイロンの『チャイルド・ハロルドの巡礼』に想を得てヴィオラを主人公ハロルドに見立てたベルリオーズ。同時代の画家ターナーも同じ題材でイタリアの風景を描いたイラストレーション ©IKE

ヴィオラとイタリア

ヴァイオリンよりひとまわり大きく、たく情感豊かな音を響かせる楽器ヴィオラ。バイロンの長編詩はイタリアのアブルッツィ地方を舞台とする。ベルリオーズは作曲家の登竜門「ローマ賞」に何度も挑戦し、ようやく受賞者として留学することのできたイタリアの思い出をハロルドの遍歴に重ね、ヴィオラに語りせよとしたのかもしれない。

PROGRAM

B

第2035回

サントリーホール

4/17 木 7:00pm

4/18 金 7:00pm

指揮 パーヴォ・ヤルヴィ | プロフィールは p. 21

ピアノ ベンジャミン・グロヴナー*

松田華音*

コンサートマスター 長原幸太

ストラヴィンスキー

バレエ音楽「ペトルーシカ」

(全曲/1947年版)* [34']

- I 謝肉祭の市場
- II ペトルーシカ
- III ムーア人
- IV 謝肉祭の市場とペトルーシカの死

—— 休憩(20分) ——

ブリテン

ピアノ協奏曲 作品13* [35']

- I トッカータ:アレグロ・モルト・エ・コン・ブリオ
- II ワルツ:アレグレット
- III 即興曲:アンダンテ・レント
- IV 行進曲:アレグロ・モデラート、
センプレ・アラ・マルチャ

プロコフィエフ

交響組曲「3つのオレンジへの恋」

作品33bis [16']

- I おどけもの
- II 地獄の場面
- III 行進曲
- IV スケルツォ
- V 王子と王女
- VI 逃亡

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは55ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhksso.or.jp/enquete.html>

ベンジャミン・グローヴナー(ピアノ)



Benjamin Grosvenor

イギリスに生まれ育ち、英国王立音楽院で学んだ。2011年には、英国の音楽家としては史上最年少、また英国のピアニストとしては約60年ぶりに、英国の名門レーベルと契約。2023年にリリースされたシューマンとブラームスのアルバムは、グラモフォン誌のエディターズ・チョイスとディアパゾン金賞を受賞した。

BBCプロムスには、2011年にリストの《ピアノ協奏曲第2番》で初登場して以来、定期的に出演。2020年にはショスタコーヴィチの《ピアノ協奏曲第1番》でパーヴォ・ヤルヴィと共演している。ウィグモア・ホール、ラジオ・フランスのアーティスト・イン・レジデンスとしてさまざまなプロジェクトを行ったほか、「ショパンと彼のヨーロッパ」音楽祭、ラ・ロック・ダンテロン音楽祭など主要音楽祭にも出演。室内楽奏者としても活躍している。近年グラモフォン誌から、トップ・ピアニスト50名のひとりを選出された。

NHK交響楽団との共演は今回が初めて。祖国イギリスを代表する作曲家、ブリテンの作品で、ノーブルかつ熱い音楽を披露してくれるだろう。

松田華音(ピアノ)



Karina Masuda

香川県高松市生まれ。4歳でピアノを始め、6歳でロシアに留学してエレナ・イワノワに師事、翌年モスクワ市立グネーシン音楽学校に入学。その後、モスクワ音楽院に日本人初のロシア政府特別奨学生として入学、ミハイル・ヴォスクレセンスキー、エリツ・ヴィルサラゼに師事し、2021年6月に大学院修了。

オーケストラとは8歳で初共演し、以来、ミハイル・プレトニョフ、ワレリー・ゲルギエフ、アンドレア・バッティストーニら著名指揮者やオーケストラと共演を重ねる。2014年にはドイツの老舗レーベルよりデビューし、これまでに2枚のアルバムをリリースした。

2020年に井上道義指揮、NHK交響楽団と伊福部昭《リトミカ・オスティナータ》を、2021年にNHK音楽祭で飯森範親指揮、日本センチュリー交響楽団とシCHEDリンの《ピアノ協奏曲第1番》を演奏し、高い評価を受けた。また2023年にはNHK交響楽団の北海道公演にソリストとして出演。

幼少期からロシア文化の中で育った松田のストラヴィンスキー《ペトルーシカ》には大いに期待できそう。

[高坂はる香／音楽ライター]

20世紀においてモダニズムがさまざまな形で新たな演劇表現に結実したとすれば、作曲家たちは自らの音楽を通して、それに相応しい現代的な速度と律動を劇場にもたらした。ストラヴィンスキー、ブリテン、そしてプロコフィエフ——今日の舞台を彩る3人の作曲家はいずれも、20世紀の作曲家たちの中では並外れて鋭い演劇的な感性の持ち主である。奇想天外なストーリー展開と変幻自在な場面の切り替え。庶民的な芝居小屋の喧騒けんそうから、生き生きとした物語が紡ぎ出される。指揮棒が宙を舞い、楽譜に記された音符に生命が吹き込まれるとき、オーケストラそのものが三者三様の色彩豊かな想像上の劇場となる。

ストラヴィンスキー

バレエ音楽「ペトルーシカ」(全曲／1947年版)

稀代の天才的興行師セルゲイ・ディアギレフ率いるバレエ・リュスは、20世紀初頭の「ベル・エポック」のバリを華やかに彩った。《ペトルーシカ》はイーゴリ・ストラヴィンスキー(1882～1971)がこのバレエ団のために作曲した2作目のバレエ音楽である。前作《火の鳥》が振付家ミハイル・フォーキンの台本に従って書かれたのとは対照的に、《ペトルーシカ》は作曲者自身の着想から生まれた。《火の鳥》が大きな成功を収めた1910年のシーズン直後、家族と夏の休暇を過ごしていた滞在先のスイスで、彼はピアノと管弦楽による協奏曲風の1組の楽章を気晴らしに作曲し、それにロシアの伝統的な人形劇のキャラクターであるペトルーシカの名前を付ける。これを気に入ったディアギレフはバレエ化を即決し、舞台美術家のアレクサンドル・ペノアに台本を依頼した。

物語は、大勢の人が行き交う第1場〈謝肉祭の市場〉に始まる。人形遣いの魔術師は群衆にペトルーシカ、バレリーナ、ムーア人の3体の人形を紹介し、彼らに〈ロシアの踊り〉を踊らせる。続く第2場〈ペトルーシカ〉では、暗い部屋でひとり落ち込むペトルーシカの様子が描かれる。彼はバレリーナに恋をするが、彼女に嫌われて絶望する。第3場〈ムーア人〉では、異国風の部屋でバレリーナとムーア人が〈ワルツ〉を踊る。そこにペトルーシカが登場し、ムーア人と諍いさかいになる。第4場〈謝肉祭の市場とペトルーシカの死〉は、再び賑やかな市場の情景となる。ムーア人に追われたペトルーシカが小屋から飛び出し、人々の目の前でムーア人に殺される。誰もいなくなった夜、ペトルーシカの亡霊が人形芝居の小屋の上に現れ、人形遣いは恐れおののいて逃げだす。

ストラヴィンスキーはこの幻想的な物語を色彩的な管弦楽法を駆使して描いた。数々のロシア民謡、手回しオルガンやオルゴール、流行のシャンソン、ウィンナ・ワルツ等々が矢継ぎ早に現れ、謝肉祭の騒々しい音風景を構成する。ペトルーシカの姿は魔法を象

徴する半音階や八音音階で描写されるが、逆説的にその中に生^{なま}の人間的な感情が発露する。今日の公演では作曲者自身による改訂版で演奏される。

作曲年代	1910～1911年(1946年に改訂)
初演	1911年6月13日、パリ、シャトレ劇場、ピエール・モントゥー指揮
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3(バス・クラリネット1)、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、シンバル付き大太鼓、小太鼓、トライアングル、タンブリン、銅鑼、シロフォン、ハーブ1、ピアノ1、チェレスタ1、弦楽

ブリテン

ピアノ協奏曲 作品13

「ストラヴィンスキーが好きだというのは君かね」。グレシャム校(イングランド東部ノーフォークのパブリック・スクール)に入学した14歳の少年は、音楽教師から警戒するような口調で迎えられた。保守的な英国の音楽家たちとは対照的に、ストラヴィンスキーは、音楽的にも知的にも早熟だった少年時代のベンジャミン・ブリテン(1913～1976)に、「モダン」な音楽とは何かを教えてくれる存在だった。1930年(16歳)、王立音楽大学に進学すると、彼はラジオや演奏会の曲目にストラヴィンスキーを見つけては、熱っぽく感想を日記に書き記した。《ペトルーシカ》もお気に入り、1931年6月にバレエ・リュスのロンドン公演で舞台を鑑賞し、クリスマスには両親からスコアをプレゼントされる。自らレコードも購入し、当時の日記からはそれを繰り返し何度も聴いていた様子^{うかが}が窺える。

1934年、大学を卒業したブリテンは生活のために映画音楽や演劇の仕事をこなしながら、その縁で繋がった詩人 W. H. オーデンを首領とする文学者たちのグループの左翼的な政治思想や挑発的な創作姿勢に感化されるようになる。《ピアノ協奏曲》は、1938年にプロムナード・コンサートで自ら独奏者を務めて披露するために作曲された。「ピアノの特性を汲み尽くした華麗な協奏曲^{ブラザーラ}」、ブリテンは作品の意図をこう語る。彼の初期作品にはマーラーやベルクからショスタコーヴィチまで、さまざまな作曲家の影響が見られるが、本作ではストラヴィンスキーとプロコフィエフのスタイルが強く意識されている。4つの楽章には〈トッカータ〉〈ワルツ〉〈レチタティーヴォとアリア〉〈行進曲〉と、まるでバレエかオペラの組曲のような装いが与えられた(なお、ブリテンは1945年に曲を改訂し、第3楽章を今日演奏されるより叙情的な〈即興曲〉に差し替えている)。エネルギーで打楽器的な独奏ピアノの運動性、庶民的な要素を巧みに織り交ぜた意図的な軽薄さ、これみよがしな演劇性とパロディ精神。そこには時代の最先端を意識しながら大胆な音楽で保守的な英国の聴衆を驚かせてやろうと意気込む新進気鋭の作曲家の姿を見出すことができるだろう。

作曲年代	1938年(1945年に改訂)
初演	1938年8月18日、ロンドン、クイーンズ・ホール、サー・ヘンリー・ウッド指揮、作曲家自身による独奏、BBC交響楽団 [改訂版]1946年7月2日、チェルトナム、チェルトナム・タウン・ホール、作曲家自身による指揮、ノエル・ミュートン・ウッド独奏、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ2)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、シンバル付き大太鼓、小太鼓、中太鼓、タンブリン、ムチ、グロッケンシュピール、ハーブ1、弦楽、ピアノ・ソロ

プロコフィエフ

交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis

セルゲイ・プロコフィエフ(1891~1953)は1918年、ロシア革命の混乱の中、新天地を求めてロシアを離れる直前に、ロシア・アヴァンギャルドの演劇家フセヴォロド・メイエルホリドから彼の戯曲『3つのオレンジへの恋』を託される。プロコフィエフはそのオペラ化を計画し、アメリカに到着後、シカゴ・リリック・オペラと新作オペラの契約を結んだ。《歌劇「3つのオレンジへの恋」》は、^{うよきよくせつ} 紆余曲折の末、1921年末に初演されて成功を収める。作曲者は初演で評判となった〈行進曲〉を中心に、6曲からなる交響組曲を編んだ。

物語は18世紀の劇作家カルロ・ゴツツィに基づく。メイエルホリドはコンメディア・デラルテ風の奇想天外な道化芝居に新たな演劇の可能性を見出した。オペラは人々が演劇論争を繰り広げる騒々しいプロローグで幕開ける(第1曲〈おどけもの〉)。クラブの王を守る魔法使いと王の敵を守る魔女はカルタ遊びで両者の命運を占う(第2曲〈地獄の場面〉)。王子のうつ病を治すために道化のトルツァルディーノは祭りを催す(第3曲〈行進曲〉)。王子はドタバタの最中に転倒した魔女の姿に大笑いし、病は癒える。魔女から呪いをかけられた王子は3つのオレンジを探す旅に出かけ、嵐の風に乗ってオレンジが隠された城へと向かう(第4曲〈スケルツォ〉)。王子は3つ目のオレンジから出てきた王女と恋に落ちる(第5曲〈王子と王女〉)。悪党一味が計略に失敗して逃走すると(第6曲〈逃亡〉)、王子と王女を祝福するフィナーレでオペラは幕を閉じる。

作曲年代	[オペラ]1918~1919年 [交響組曲]1919/1924年
初演	[オペラ]1921年12月30日、シカゴ、オーディトリウム劇場、作曲家自身による指揮 [交響組曲]1925年11月29日、パリ、フィリップ・ゴーベール指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タンブリン、銅鑼、グロッケンシュピール、シロフォン、ハーブ2、弦楽

はじめてのクラシック

Introduction to Classical Music

B 2025
APRIL
[第2035回]

反戦を掲げたモダニスト

ベンジャミン・ブリテン

Benjamin Britten (1913–1976)

第1次世界大戦前年の1913年に生をうけたブリテンは、加速する時代を生きる早熟な天才だった。ストラヴィンスキーやプロコフィエフを範として「モダン」を追求した彼は、大学を卒業すると映画音楽の作曲や伴奏も担当。そこで知り合った詩人オーデンの思想に感化されて、反戦の思いを強くしてゆく。その時期に作曲された《ピアノ協奏曲》は、すぐれたピアニストでもあった自身のテクニックを惜しみなく注ぎ込みながらも、時代を革新しようとする気概にあふれている。

時代のざわめきに耳を傾けるブリテン
イラストレーション: ©IKE

忍び寄る大戦の影

ブリテンがこの作品を作曲したのは1938年。ピアノの機械的な運動性が醸し出すのは、翌1939年に勃発する第2次世界大戦の予感だろうか。保守的な英国音楽界に飽き足らず、時代のざわめきに鋭敏に耳を澄まし、表現しようとする若きブリテンの姿が映し出されているようだ。



N響百年史

第五十四回 紀元は2600年

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。日中戦争、第二次世界大戦という激動の中、めぐつてきた西暦一九四〇年＝皇紀二六〇〇年。新響は音楽による奉祝の先頭に立ちます。

皇紀2600年とは

西暦1940年は昭和15年。皇紀では2600年にあっていた。皇紀とは、神武天皇が^{やまとのくに}大和国の^{かしはら}橿原で即位したとされる年を元年とする、日本独自の紀元。より正確には神武天皇即位紀元と言うべきところを略して皇紀だ。

神武天皇とは初代の天皇である。高天が原^{たかま}の天照大神の子孫が日本列島に統一国家を打ち立てるべく、初めて天皇を名乗る。この国の神話である。それは何年前の出来事か。『日本書紀』の記述によって数えることができる。皇紀元年は西暦では紀元前660年に相当する。したがって西暦の年数に660を足すと、毎年の皇紀の年数が算定できる。1940+660=2600。そういうわけだ。

現代の歴史学では大和朝廷の成立を西暦で3世紀後半から4世紀にかけてと考えるのが普通であろう。大和朝廷の王が天皇の始祖とされるから、『日本書紀』の記す年代は実際よりも約900年はさかのぼって設定されているようである。それには理由があらう。7世紀は東アジアが緊迫した時代であった。新羅や唐と^{くだら}百済や日本が対立し、^{はくすきのえ}白村江の戦いで日本と百済は敗れ、百済はついに滅亡。半島から日本に亡命する者も多かった。日本にとっては危機的な事態である。唐や新羅に対して劣勢に立たされた日本は、さらなる大戦争の可能性を考慮しながら、中央集権国家の確立に努め、経済力や軍事力の強化に励み、しかも大陸や半島に対抗するための国家的アイデンティティを確立せねばならなかった。日本国家の起原についても、大陸や半島に見劣りせぬように整えられなければ、存在感を保てない。日本はそれなりの文明国だから簡単に手出しはできない

のだ。唐や新羅から少しでもそう思われなければ、張り合いがない。

そのとき、古代日本国家が参照したのは、やはり大陸の思考法や価値観である。朝鮮半島の人々も日本列島の人々も、すでに長いこと中華文明を模範として育ててきている。なにしろ漢字を使う。日本の天皇という名称も大陸での北極星の呼び名に由来するともいわれる。中華文明を模倣することが周辺の国々にとって発展の証なのだ。そして中華文明はとても縁起を担ぐ。古代中国の讖緯思想(一種の占術)では、十干十二支の60年周期(人の人生がその60の組み合わせを一めぐりすると還暦となる)の中でも58番目にあたる辛酉の年に政治的変革が起こりがちと考えた。さらに、同じ辛酉でも、とてつもない水準で世の中が改まるのは21回に1回と教えていた。60年に1回の辛酉の年が繰り返されて21回目の年が大変革の節目。「 $60 \times 21 = 1260$ 」だから、本当に大変なことが起きるのは1260年に1回という話にもなる。日本に天皇が誕生したのはその大変な年であるということにすると、中華文明的には説得力が増してくるだろう。ゆえに、記紀神話を公的に編纂しなければならぬ必要に迫られた天武天皇の頃の日本では、危機の時代たるその頃、つまり西暦でいうと7世紀の辛酉の年から1260年前に初代天皇が即位したことにすると、東アジア的な価値観からはとても落ち着きも収まりもよいし、日本の文明のとても古くからの由緒も強調できるといった知識人たちがいて、彼らの考えが『日本書紀』に反映したと想像することができる。ともかく、西暦に換算すると紀元前660年になる神武天皇即位年は、讖緯思想にしたがって計算されたものと考えることができる。明治期に那珂通世が唱えて広まった、ひとつの定説である。

といっても、この皇紀は古代から広く用いら

れていたわけではなかった。日本人にとっては元号や千支で年を数えるのが普通で、神武天皇即位の年から通年で数えようとするのはかなり例外的だった。江戸時代になると、尊皇思想家の中には、中華文明よりも西洋文明のキリスト誕生紀元(西暦)と張り合うつもりで皇紀を用いたがる者も現れてきたが、それでも使用例は限られた。徳川斉昭に仕えた水戸の学者、藤田東湖は西暦1840年に皇紀2500年を祝う漢詩を作っているが、他に大勢が作ったということでもない。

が、そんな皇紀に明治の新政府が目した。明治維新の建前は王政復古である。天皇中心の古代国家の再現をめざす。その日本の古代を神話にもとづいてスケールを大きく考えたい。そのとき、西洋文明に歴史の長さの点でも見劣りせぬように、西暦よりも数字の大きな、しかも由緒ある日本独自の紀元を使うのは、見てくれとしてなかなかよい。古代大和朝廷の頃の、海外に虚勢を張りたい知識人たちの態度、そして幕末の尊王攘夷運動家の発想と、まったく同じだ。さいわい、古代人の工夫してくれた皇紀こそ、王政復古を唱えながら文明の西洋化をめざす近代日本が公的に用いるにふさわしい。明治政府は皇紀を国家として正式に採用した。その際、うつろいやすくて、ややこしくて、文久3年とか慶応2年とかいわれても、何年前だかよくわからなくなりがちな元号を廃止しようという意見もあったのだが、守旧派が頑張って、残してしまった。結果、近代日本の公式な年の数え方は、西暦と皇紀と元号を並記して用いる、とても面倒な具合になったのだが、その皇紀で数えると大きな節目の2600年が昭和15年にちょうどめぐってきたのである。2500年のときはまだ江戸時代だし、2700年は西暦2040年の未来である。対して2600年とはいうと、明治維新か

ら72年で、近代日本もそれなりに実を挙げ、世界にますます覇権を唱えようとする段階。なかなかよいタイミングではないか。そう思えました。

音楽による国威発揚

そのタイミングのことを日本の政府も民間も早くからよく意識していた。なにかとねらい目の年。昭和15年の2月に札幌オリンピックが、3月から8月まで東京で日本万国博覧会が、9月から10月にかけて東京オリンピックが、立て続けに行われることになっていたのも、すべて皇紀2600年に合わせてであった。五輪の開催予定年と皇紀の区切りの年が重なっていたのも僥倖である。夏と冬の五輪と万博をひとつの国でまとめて行うというのは、世界でも珍しかろう。日本はその下準備に成功したのだ。

ところが1937(昭和12)年夏からの泥沼の日中戦争がすべてを御破算にした。すぐ終われるつもりが終わらなかった。短期戦争のつもりが長期戦争になった。日本は五輪や万博で世界から観光客を集めるどころではなくなった。五輪も万博も開催を断念するにいたった。全世界に近代日本の発展を誇示しようとする格好の機会がこうして失われた。いや、仮に日中戦争が起きなかったとしても、1939(昭和14)年秋からは欧州で大戦争が始まる。第2次世界大戦だ。どのみち、五輪や万博という平和な手段による対外的国威発揚と国際親善をその年になすのは難しかったのだ。

それでも昭和15年は自ずとめぐってくる。皇紀2600年はどうなったか。日中戦争は4年目に突入し、なお終わる気配が感じられない。国民の愛国心をますます増幅させ、前線に兵士を、軍需工場に労働者を、不断に送り込み

続けねばならない。皇紀の大きな節目の年は、当初は対外的国威発揚のための催事の年になるはずが、転じてとても対内的でドメスティックな国威発揚のための催事で埋め尽くされる年に化けた。そのために、ありとあらゆる文化芸術の媒体が動員された。音楽も重要である。邦楽もだが洋楽も。とりわけクラシック音楽も。日本で西洋クラシック音楽がよく発展して、しかも単なる西洋の模倣でなく、西洋を消化し、そのうえ批判さえて、日本のオリジナルな創作がそれなりの水準で行われているのだと内外に示せば、それは近代日本の自信になるはずだ。文明開化の名のもとに西洋の学芸を懸命に学習し、ついに真似の域を乗り越えて、改めて東洋的・日本的自覚を得る。そんな音楽作品がどしどし現れてこそその皇紀2600年ではないか。それでこそ日本は真に近代的、いや、超近代的な文明国になれるのではないか。そういう期待が、特定の誰かによって主導されるというものでもなく、政界や財界や官界やマスコミや知識層のあちこちから沸々と湧いてきたのが、皇紀2600年のクラシック音楽を取り巻いた状況の特徴だろう。

それは多分に国策的・時局的な含みを有するものであったに違いないが、それを百も承知のうえでも、多くの作曲家たちには欣快事であった。なぜなら日本のクラシック音楽の演奏家もファンも、シンフォニーやオペラを作ろうとするような自国の作曲家には概してずっと冷たかったからである。本場の大作曲家の名曲をもっと極め、味わいたいというのに、しばしば半端な実力しか持ち合わせていないように思える日本の作曲家の仕事にまで親身に付き合っているのか。そんな風潮が長らく強かった。そこに、戦争を背景として、新しい理屈の大波が俄かに押し寄せた。国民的自覚を高め

るには日本的なものに注目せよ！クラシック音楽の場合は日本人作曲家の仕事が重要ではないか。日本人が伝統音楽をやれるのは前近代から当たり前だが、当たり前でない西洋音楽をしかも独自性を表出して作れるようになればそれこそ近代日本の誉れではないか。そういう新しいうねりに作曲家たちは乗った。こうして皇紀2600年に、日本の西洋クラシック音楽畑の作曲の世界は異様なまでの高潮を示したのである。もちろんそれを演奏するのまた日本人でなければならない。新交響楽団(現NHK交響楽団)にも多くの仕事が降ってきた。

山田耕筰のオペラ、ついに上演

たとえば4月3日。新交響楽団は日本文化中央連盟主催の特別演奏会に出演した。同連盟は、政府から多額の補助金を得て1937(昭和12)年に設立され、もともと皇紀2600年に的を絞って催事の準備を進めてきた民間在野の団体。特に音楽には熱心であった。日本人作曲家に肩入れした。このコンサートは日本人作曲家への委嘱新作を3つまとめて初演するもの。箕作秋吉の序曲《大地を歩む》と、大木正夫の、演奏に1時間近くを要し、楽章のいちいちに相異なる独奏楽器(ティンパニとか)を用いての協奏的仕掛けを凝らした交響舞曲《羽衣》は、ともに作曲家の指揮で。清瀬保二の、古代の神楽風からモダンな日中混交風までの全5楽章によって皇紀2600年の音のパノラマを企図した《日本舞踊組曲》は、小船幸次郎の指揮で。

小船はアレクサンドル・チェレプニン門下の作曲家兼指揮者で、イタリアに短期留学してきたばかり。このコンサートに先んじる2月29日には、帰朝記念としてやはり新交響楽団を指揮し、

「イタリア音楽の夕べ」を開催してもいた。ムッソリーニ時代になってイタリアのバロックから前古典派のあたりの発掘と復興が図られている時流を反映して、チマローザとジェミニアーニが取り上げられ、あとはマルツッチの《セレナータ》とレスピーギの《ローマの噴水》とマリピエロの《自然の印象》。9月には日独伊三国同盟が結ばれるのだが、そこに向かって日伊文化交流もさかんに行われていた。その一環ともいえる。

小船は3月17日には新交響楽団とラジオで共演し(新交響楽団の放送出演時の名称は日本放送交響楽団)、皇紀2600年の祝典曲、早坂文雄の《序曲ニ調》を振っている。

下って7月7日。その日は1937(昭和12)年に北京の盧溝橋で日中両軍が衝突し、日中戦争が始まった日。「支那事変三周年」だ。新交響楽団は記念演奏会に出演する。現在進行中の生々しい戦争と、神話の彼方からやってきた皇紀2600年とが重なり合う、国威発揚コンサートだ。指揮は山田耕筰。曲目も全部、山田の作品。《「君が代」による御大典前奏曲》と交響曲《明治頌歌》と合唱付き交響曲《昭和讃頌》。大作揃いだ。会場は厳粛たる興奮に包まれたという。

この時期、とても山田は張り切っていた。彼は大正時代から日本製グランド・オペラの夢に取りつかれていた。能や歌舞伎の伝統を有する日本に西洋クラシック音楽を根付かせるには、形式と論理を重視した純粋器楽よりもオペラを作ることが大切。その仕事の柱になるのはどうしても自分だ。そんな山田が大正期に作った日本交響楽協会から多数の楽員が近衛秀麿を担いで分裂劇を繰り返して、誕生したのが新交響楽団だけれど、山田の日本交響楽協会とは、シンフォニーをやるよりも、山田の自作のグランド・オペラの管弦楽伴奏を担当する理想の楽

団として育成される予定のものだった。少なくとも山田の世界観ではそうになっていた。

が、山田は挫折し続けた。日本を代表する作曲家とは認められたものの、山田にグランド・オペラを本当に作ってもらい、それを舞台に懸けたいという興行主はずっと現れずじまい。山田は《黒船》という名のグランド・オペラを多年にわたって構想し、一部を仕上げてもいたが、実際にやるあてもないのでモチベーションが持続せず、未完成のままに放置していた。それが皇紀2600年で風向きが変わった。大家の山田の大歌劇をやる時機は今。新聞社などのスポンサーが次々と現れた。山田は《黒船》を急ピッチで完成させ、皇紀2600年にふさわしいようにと《夜明け》と改題し、同作は11月28日から12月1日までの4日間、東京宝塚劇場で上演された。山田の諦めかけていた夢は、皇紀2600年ならではの追い風に乗って、疾風怒濤で叶った。出演は藤原義江ら。指揮は作曲家自身。管弦楽はむろん新交響楽団である。山田のグランド・オペラをいつか伴奏するはずだった日本交響楽協会から出て行ったオーケストラが、つかの間でも元の鞆に収まり、作曲家の夢をかたちにする。山田は感激した。

ちなみに《夜明け》は日本の娘と尊王攘夷の志士と米国領事との三角関係を描き、最後は米国の軍艦が江戸湾で砲撃をはじめ、それが平和外交の成功への祝砲なのか、日本への威嚇のつもりで撃っているのか、轟音の中、曖昧さを残して終わってしまう。1年後には戦争になる現実の日米関係に何か暗示を与えているかのようにも受け取られた。そのせいか、駐日米国大使、ジョゼフ・グルーは東京宝塚劇場に2度も足を運んだと伝えられる。

奉祝行事の最前線を走る新響

さかのぼって8月18日。新交響楽団は放送で江文也の大作《孔子廟大成楽章》を作曲家の指揮で演奏している。江は台湾に生まれ、廈門に育ち、中学から日本本土に留学し、山田耕筰や橋本國彦に師事して作曲の道を歩み、チェレブニンに激賞され、その頃は北京を本拠にしていた。日本と大陸の架け橋として期待の大きかった、日本国籍だが民族的には中国人の作曲家である。皇紀2600年と声高に叫んでも大陸の人々には伝わりにくい。日華の共通理解を深めるには両者の共有できる文化に頼るのがいちばんだ。江の《孔子廟大成楽章》はというと、儒教の礼楽の現代化をめざしたものといいよい。孔子は、人間の内面倫理を理想的音楽を聴かせることで高められると信じ、音楽による社会秩序の形成を意図した。江はそんな孔子の夢を現代的に再現する音楽を作ろうと、小澤征爾の父、小澤開作らの応援を受けながら、北京で取り組んでいた。新交響楽団はそういう作曲家の仕事を、皇紀2600年の夏、東京で紹介していた。

政府主催の皇紀2600年奉祝行事が、天皇と皇后の臨席の下、近衛文麿首相以下が勢ぞろいして皇居前広場で行われたのは11月10日。その日、新交響楽団はやはり放送局のスタジオに入り、須賀田磯太郎の雅楽的管弦楽曲にして猛烈に華々しい《双龍交遊之舞》を、橋本國彦の指揮で初演している。橋本が須賀田に宛てた、練習時間不足ゆえの演奏上の不備を詫びる葉書が遺されているが、とにかくオーケストラは大忙しなのであった。

当然ながら、新交響楽団は1940年にも毎月の定期演奏会を行っている。秋のシーズンか

らは新しいやり方になった。それまでは定期を月に1回か2回、1日ずつやっていたのが、秋からは原則として月に1回の定期を2日ずつ連日で行うようになった。戦時ならではの一種の合理化かもしれない。政府式典のあった11月10日から10日後の20日と翌21日の第220回定期は、いつものようにヨーゼフ・ローゼンシュトックの指揮で開かれたが、曲目には政府式典の行われた月にふさわしい工夫があった。雅楽的管弦楽曲が取り上げられた。しかもそれは新交響楽団としてはしばらくタブーだったといえる作品である。5年前に追い出し、そのときは欧州にあった近衛秀麿が西洋管弦楽用に編曲した《越天楽》^{えてんらく}。皇紀2600年のおかげで、華族の筆頭、近衛家の音楽家で、首相の弟たる秀麿の新交響楽団での復権も、とりあえずかなった

ということだろう。

そのあと、新交響楽団はすぐ山田の《夜明け》に取り組み、続いて諸楽団との混成による臨時の大オーケストラを組んで、リヒャルト・シュトラウスら、海外の作曲家たちから贈られた皇紀2600年奉祝楽曲の演奏に取り組む。怒濤の師走だ。新交響楽団は皇紀2600年奉祝行事の常に真正面を走り続けた。

文 | 片山杜秀(かたやまもりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2024年11月1日付で水戸芸術館館長に就任。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』『大衆必易』ほか著書多数。

WEB連載

「NHK交響楽団のあゆみ」始動！

2026年のN響創立100年に向けて、ホームページにて新連載「NHK交響楽団のあゆみ」を4月下旬よりスタートいたします。執筆を担うのは、『王道楽土の交響楽』『日本のピアノ100年』などの著書でも知られる、音楽ジャーナリスト・編集者の岩野裕一氏。終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけます。「フィルハーモニー」連載「N響百年史」とあわせてお楽しみください。



<https://www.nhkso.or.jp/news/index.html>

「N響百年史」過去の連載がPDFでご覧いただけます

N響ホームページでは「フィルハーモニー」の一部バックナンバーをPDFで公開しています。片山杜秀氏による「N響百年史」連載は、第1回(2018年11月号)、第2回(2019年2月号)、第3回(2019年5月号)、第4回(2019年6月号)、以降は毎月掲載されています。



<https://www.nhkso.or.jp/about/archives/philharmony/index.html>

2025年5月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

この上なく名誉な
「マーラー・フェスティバル」への参加

2025年5月、N響は5年ぶりとなるヨーロッパ公演に出発する。ツアーのハイライトは、アムステルダムで行われるマーラー・フェスティバルへの出演である。アジアから史上初めて、そして唯一N響が選ばれたのは、この上なく名誉なことと言ってよい。

私たちが演奏するマーラーの交響曲は、長大な《第3番》と比較的コンパクトな《第4番》。ある意味、対極と言ってもよい組み合わせだが、それだけに、上昇気流にある今のN響の特性を多面的に伝えることができる、絶好の機会になるだろう。これら2曲の交響曲を、ツアーに先立つ定期公演でも取り上げる。

フェスティバルを前に《第3番》と
《第4番》をA・Bプログラムで披露

[Aプログラム]は《交響曲第3番》。カッコウの鳴き声にポストホルン、軍楽隊の行進曲や民謡、形而上的けいじじょうな世界の暗示にいたるまで、この曲には森羅万象が含まれている。「交響曲は、全てを包む世界のようにでなければならない」と語ったマーラーの独創性は、この曲で初めて全開になった。

この言葉に共感を抱くルイーゼにとって、

《第3番》は《一千人の交響曲》に続き、もっとも腕のふるいが甲斐がある曲のひとつ。時間的・空間的な広がりを、圧倒的なスケールで描くだろう。ルイーゼが高く評価するオレシア・ペトロヴァが、《一千人》に続いて登場する。

[Bプログラム]は《交響曲第4番》。終楽章でソプラノが歌う「天上の暮らし」は、民謡詩集『こどもの不思議な角笛』から引用されたもので、純真無垢なように書いてグロテスクでもあるテキストは、聖と俗が混然一体となったマーラーの世界そのものである。ソリストはルイーゼ自身が選んだ森麻季（ヨーロッパ公演ではイン・ファン）。

ベルク《ヴァイオリン協奏曲》も、マーラーと浅からぬ因縁がある。マーラーの没後、妻アルマは建築家のグロピウスと再婚したが、2人の間に生まれた娘マノンを、ベルクはことのほか可愛がっていた。若くして亡くなった彼女にささ捧げられたのがこの曲だからだ。ソリストは、20世紀音楽を得意とする諏訪内晶子（ようせい）。天逝した少女を悼んで、「天上の暮らし」に思いを馳せる、そんな展開のプログラムである。

歌劇場で活躍するシュレキーテが贈る
R. シュトラウスのオペラ・ハイライト

[Cプログラム]のギエドレ・シュレキーテは、リトアニアの若手指揮者でN響初登場。普段

は物腰の柔らかい女性だが、いざ指揮台に立つと、目指す方向にオーケストラをドライブしようという決然たる意志がみなぎる。カネラキス、マルヴィッツ、沖澤のどかなど、1980年代生まれには有望な女性指揮者がひしめくが、彼女たちと同様に、注目株のひとりである。

歌劇場での活躍が目覚ましいシュレキーテが、R. シュトラウスのオペラに基づく作品をお送りする。《「影のない女」による交響的幻想曲》と、《「ばらの騎士」組曲》は、どちらもオペラの聴きどころを20数分にまとめたもので、華やかなオーケストレーションと名旋律がたっぷり味わえる。特に《影のない女》の二重唱、《ばらの騎士》の有名な三重唱は、R. シュトラウスが書いた屈指の名場面で、これらが今回の管弦楽版のクライマックスでもある。

ドホナーニはハンガリーの作曲家で、R. シュ

トラウスの同時代人。《ばらの騎士》の三重唱はR. シュトラウスの葬儀で演奏されたが、この時、指揮をしたゲオルク・ショルティは、ドホナーニの弟子である。

《童謡の主題による変奏曲》では、おなじみの《きらきら星》の主題に、ブラームスやラフマニノフ、デュカスなど、さまざまな作曲家のスタイルを思わせる11の変奏が続く。色彩豊かでウィットに富んだ音楽は、藤田真央のキャラクターそのもので、彼がこの曲を希望したのも腑に落ちる。あまり演奏されない作品だが、シュレキーテも数年前にスウェーデンで指揮したことがあるようで、不思議な巡りあわせを感じる。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A 4/26 土 6:00pm
4/27 日 2:00pm
NHKホール

※5月定期公演Aプログラムは4月に開催いたします。

N響ヨーロッパ公演2025 プログラム
マーラー／交響曲 第3番 二短調
指揮：ファビオ・ルイーゼ
メゾ・ソプラノ：オレシア・ベトロヴァ
女声合唱：東京オペラシンガーズ
児童合唱：NHK東京児童合唱団



B 5/1 木 7:00pm
5/2 金 7:00pm
サントリーホール

N響ヨーロッパ公演2025 プログラム
ベルク／ヴァイオリン協奏曲
マーラー／交響曲 第4番 長調*
指揮：ファビオ・ルイーゼ
ヴァイオリン：諏訪内晶子
ソプラノ：森 麻季*



C 5/30 金 7:00pm
5/31 土 2:00pm
NHKホール

シューベルト／「ロザムンデ」序曲
ドホナーニ／童謡(きらきら星)の主題による変奏曲 作品25*
R. シュトラウス／歌劇「影のない女」による交響的幻想曲
R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲
指揮：ギエドレ・シュレキーテ
ピアノ：藤田真央*



チケットのご案内(定期公演 2024年9月～2025年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	販売終了
	シーズン会員券(Winter)	販売終了
	シーズン会員券(Spring)	発売中

料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム(9回)	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)
Cプログラム(8回)	一般	¥68,000(¥8,500)	¥57,800(¥7,225)	¥44,200(¥5,525)	¥36,720(¥4,590)	¥29,240(¥3,655)
	ユースチケット	¥34,000(¥4,250)	¥27,200(¥3,400)	¥21,080(¥2,635)	¥17,336(¥2,167)	¥10,200(¥1,275)

シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
Cプログラム [Autumn/Winter](3回)	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)
Cプログラム [Spring] (2回)	一般	¥17,900(¥8,950)	¥15,216(¥7,608)	¥11,636(¥5,818)	¥9,666(¥4,833)	¥7,698(¥3,849)
	ユースチケット	¥8,950(¥4,475)	¥7,160(¥3,580)	¥5,550(¥2,775)	¥4,566(¥2,283)	¥2,686(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価
※本シーズンよりD席のみ設定されていた「ユースチケット会員券」を、全席種(S～D)に拡大しました。
※本シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	販売終了
	12・1・2月	販売終了
	4・5・6月	発売中

※本シーズンより1回券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

ユースチケット

N響では、若い世代の方にオーケストラを身近に感じていただくことを願って、お得な「ユースチケット」を設けています。詳しくはN響ホームページをご覧ください。※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。

ユース世代の方へのお得なチケットが、さらに使いやすく！

対象年齢を拡大
2024年7月の主催公演から対象年齢を「29歳以下」に拡大しました

定期会員券の対象席種を拡大
「S席～D席の全席種」に拡大しました

お申し込み

WEBチケットN響
<https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm/定休日：土・日・祝日
●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

「WEBチケットN響」「N響ガイド」 サービス手数料改定のお知らせ

これまで「WEBチケットN響」ならびに「N響ガイド」では、NHK交響楽団公演のチケット販売に際して可能な限りお客様のご負担が少なくなるよう各種手数料の価格維持に努めてまいりましたが、情報セキュリティにおける脅威への対策強化やサービスに従事する人件費の高騰など社会的経済環境の大きな変化を受けまして、2025年4月1日のご購入分よりチケット販売にかかわるサービス手数料を一部改定させていただきます。

お客様におかれましてはご負担をおかけすることとなり誠に恐縮ではございますが、今後も安定したサービスの提供と運営業務の効率化に取り組んでまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。

改定後のサービス手数料 | 全て消費税を含みます

定期会員券(継続・席替え・会員先行発売期間)

決済方法	引取方法	決済手数料	発券手数料	配送手数料
払込票/口座振替※				
クレジットカード	配送 (簡易書留)	無料	無料	無料
セブン-イレブン				
ファミリーマート				

※「払込票/口座振替」は継続手続き期間中のみご利用可。口座振替は現在ご利用中の方のみの取り扱い(新規のお申し込みは受付していません)。

定期会員券(一般発売以降)

決済方法	引取方法	決済手数料	発券手数料	配送手数料
クレジットカード	セブン-イレブン	無料	無料	—
	ファミリーマート			
	配送(簡易書留)			
セブン-イレブン	セブン-イレブン	330円/件	無料	—
ファミリーマート	ファミリーマート			

電話でのご購入の場合は、上記と別に「電話申し込み手数料」として550円/件を頂戴します。

1回券

決済方法	引取方法	決済手数料	発券手数料	配送手数料
クレジットカード	セブン-イレブン	無料	132円/枚	—
	ファミリーマート			
	eチケット(WEBのみ)			
	配送(簡易書留)			
セブン-イレブン	セブン-イレブン	330円/件	132円/枚	—
ファミリーマート	ファミリーマート			

電話でのご購入の場合は、上記と別に「電話申し込み手数料」として550円/件を頂戴します。

2024-25定期公演プログラム

A NHKホール 開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	B サントリーホール 開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm	C NHKホール 開場6:00pm 開演7:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm
---	---	---

2025 05	A 第2036回 4/26(土) 6:00pm 4/27(日) 2:00pm ※5月定期公演Aプログラムは4月に開催いたします。 NHKホール	ヨーロッパ公演に先駆け 勝負曲を定期公演で披露 N響ヨーロッパ公演2025 プログラム マーラー／交響曲 第3番 二短調 指揮:ファビオ・ルイーゼ メゾ・ソプラノ:オレシア・ペトロヴァ 女声合唱:東京オペラシンガーズ 児童合唱:NHK東京児童合唱団	一般 S ¥15,000 A ¥12,500 B ¥10,000 C ¥8,000 D ¥6,500 E ¥4,500	ユースチケット S ¥7,000 A ¥6,000 B ¥5,000 C ¥4,000 D ¥3,000 E ¥2,000
	B 第2037回 5/1(木) 7:00pm 5/2(金) 7:00pm サントリーホール	札幌あう“生と死”を越えし その彼方の光へ N響ヨーロッパ公演2025 プログラム ベルク／ヴァイオリン協奏曲 マーラー／交響曲 第4番 長調* 指揮:ファビオ・ルイーゼ ヴァイオリン:諏訪内晶子 ソプラノ:森 麻季*	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
	C 第2038回 5/30(金) 7:00pm 5/31(土) 2:00pm NHKホール	オペラ指揮者シュレキエーテのR. シュトラウス! N響定期初登場 藤田真央にも注目! シューベルト／「ロザムンデ」序曲 ドホナーニ／童謡(きらきら星)の主題による変奏曲 作品25* R. シュトラウス／歌劇「影のない女」による交響的幻想曲 R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲 指揮:ギドレ・シュレキエーテ ピアノ:藤田真央*	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
2025 06	A 第2039回 6/7(土) 6:00pm 6/8(日) 2:00pm NHKホール	巨匠が魂を込めて振る チャイコフスキー最後の交響曲 リムスキー・コルサコフ／歌劇「5月の夜」序曲 ラフマニノフ／バガニーニの主題による狂詩曲 作品43* チャイコフスキー／交響曲 第6番 短調 作品74「悲愴」 指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ ピアノ:ユリアンナ・アヴデーエワ*	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
	B 第2040回 6/12(木) 7:00pm 6/13(金) 7:00pm サントリーホール	チェリビダッケの直弟子 メナのブルクナー(第6番) イベル／フルート協奏曲 ブルクナー／交響曲 第6番 長調 指揮:ファンホ・メナ フルート:カール・ハインツ・シュツ	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
	C 第2041回 6/20(金) 7:00pm 6/21(土) 2:00pm NHKホール	2000年生まれの新超新星 ベルトコスキのマーラー(巨人) コルンゴルト／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35 マーラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」 指揮:タルモ・ベルトコスキ ヴァイオリン:ダニエル・ロザコヴィッチ	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

(料金はすべて税込)

特別公演

6/26(木) 7:00pm | Music Tomorrow 2025

東京オペラシティ コンサートホール

指揮: イェルク・ヴィトマン ヴァイオリン: 辻 彩奈 トランペット: ホーカン・ハーデンベルガー
権代敦彦 / 時と永遠を結ぶ絃—ヴァイオリンとオーケストラのための Op. 193 (2023) [第72回「尾高賞」受賞作品]
ヴィトマン / 死の舞踏 (2022) [日本初演]
ヴィトマン / 楽園へ (迷宮 VI) —トランペットとオーケストラのための (2021) [日本初演]

料金(税込): 一般 | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円
ユースチケット(29歳以下) | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売中

主催: NHK / NHK交響楽団 共催: (公財)東京オペラシティ文化財団
助成: (公財)三菱UFJ信託芸術文化財団 / (公財)アフィニス文化財団



6/29(日) 4:00pm | N響ウェルカム・コンサート

NHKホール

指揮: 平石章人 クラリネット: 松本健司 (N響首席クラリネット奏者) ナビゲーター: 大林奈津子
ワーグナー / 楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲 (6月Aプログラム)
ツェムリンスキー / 交響詩「人魚姫」—第2楽章(抜粋) (12月Aプログラム)
グリーグ / 組曲「ホルベアの時代から」—「ガヴォット」 (10月Bプログラム)
シベリウス / 交響詩「4つの伝説」—「レンミンケイネンの帰郷」 (9月Cプログラム)
モーツァルト / クラリネット協奏曲—第2楽章 (4月Bプログラム)
外山雄三 / 管弦楽のためのディヴェルティメント—第3楽章 (4月Cプログラム)
ストラヴィンスキー / バレエ組曲「火の鳥」 (1919年版)—「王女たちの踊り」 (1月Cプログラム)
ホルスト / 組曲「惑星」—「木星」 (11月Aプログラム)
終演後のお楽しみ! N響メンバーのトークコーナー

料金(税込): 一般2,000円 / 定期会員1,700円 / ユースチケット(29歳以下) 1,000円
/ ウェルカム・ペアチケット(2枚1組) 3,200円

チケット発売中

主催: NHK / NHK交響楽団

7/18[金] 7:00pm | N響「夏」2025

NHK ホール

指揮:ダーヴィト・アフカム ピアノ:マルティン・ヘルムヒェン

シューマン/ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68

料金(税込):一般 | S席7,300円 A席5,300円 B席3,300円 C席2,100円

ユースチケット(29歳以下) | S席3,600円 A席2,600円 B席1,600円 C席1,000円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 5月12日(月)10:00am

一般 | 5月16日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団 協賛:岩谷産業株式会社

8/3[回] 3:30pm | 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート

NHK ホール

指揮:松本宗利音 ピアノ:阪田知樹* ナビゲーター:一龍斎貞鏡

[オーケストラとゆく ちょっとふしぎな夏の冒険]

バンスタイン/歌劇「キャンディード」序曲

グリーグ/劇音楽「ペール・ギュント」〈抜粋・講談つき〉

ガーシュウィン/ラプソディー・イン・ブルー*

メンデルスゾーン/交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」—第2楽章

チャイコフスキー/イタリア奇想曲 作品45〈抜粋〉

ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」—「ジークフリートのラインの旅」

料金(税込):一般 | S席5,500円 A席4,500円 B席3,000円 C席1,500円

ユースチケット(29歳以下) | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円 C席1,000円

小・中学生 | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円 C席500円

※定期会員はS・A・B各席の一般料金から10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 5月12日(月)10:00am

一般 | 5月16日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

WEBチケットN響 | <https://nhkso.pia.jp>



お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間:10:00am~5:00pm

定休日:土・日・祝日

●東京都内での主催公演開催日は曜日に問わず10:00am~開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

5/5 月祝 5:00pm

NHK交響楽団

ファビオ・ルイーヂ [首席指揮者] リーズ・ドウ・ラ・サール [ピアノ]

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

指揮:ファビオ・ルイーヂ ピアノ:リーズ・ドウ・ラ・サール

武満徹 / 3つの映画音楽

グリーグ / ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

ブラームス / 交響曲 第4番 ホ短調 作品98

主催:(公財)所沢市文化振興事業団 お問い合わせ:ミューズチケットカウンター TEL (04)2998-7777

7/5 土 5:00pm

厚木市文化会館リニューアルオープン・厚木市制 70周年記念事業

NHK交響楽団 厚木公演

厚木市文化会館

指揮:川瀬賢太郎 バンドネオン:三浦一馬

マルケス / ダンソン 第2番

ピアソラ / バンドネオン協奏曲「アコンカグア」

ピナステラ / バレエ組曲「エスタンシア」作品8a

バーンスタイン / 「ウエスト・サイド・ストーリー」からシンフォニック・ダンス

主催:(公財)厚木市文化振興財団 お問い合わせ:厚木市文化会館チケット予約センター TEL (046)224-9999

7/10 木 7:00pm

東京国際指揮者コンクール

入賞デビューコンサート 指揮コン×N響

サントリーホール

ストラヴィンスキー / バレエ組曲「火の鳥」(1919年版) (指揮:吉崎理乃)

ガーシュウィン / バリのアメリカ人 (指揮:ライリー・コート・ウッド)

ブラームス / 交響曲 第1番 ハ短調 作品68 (指揮:コレニリオス・ミハイリディス)

主催:MIN-ON お問い合わせ:MIN-ON インフォメーションセンター TEL (03)3226-9999

7/13 日 3:30pm | N響ゴールデン・クラシック 2025 夏編

府中の森芸術劇場 どりーむホール

指揮:熊倉優 ピアノ:若林 顕

ラフマニノフ / ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

リムスキー・コルサコフ / 交響組曲「シェエラザード」作品35

主催:MIYAZAWA & Co. お問い合わせ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570)00-3337

7/21(日) 4:30pm | NHK交響楽団演奏会 広島公演

上野学園ホール(広島県立文化芸術ホール)

指揮:ダーヴィト・アフカム ピアノ:マルティン・ヘルムヒエン

シューマン/ピアノ協奏曲 イ短調 作品54

ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68

主催:NHK広島放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

7/27(日) 3:00pm | NHK交響楽団 姫路特別演奏会

アクリエひめじ 大ホール

指揮:ヴァレリー・ボリャンスキー ピアノ:エヴァ・ゲヴォルギヤン

チャイコフスキー/ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 作品23

チャイコフスキー/交響曲 第5番 ホ短調 作品64

主催:(公財)姫路市文化国際交流財団 お問い合わせ:姫路市文化国際交流財団 制作チーム TEL(079)297-1141

8/4(日) 3:00pm | フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2025

ミュージア川崎シンフォニーホール

指揮:松本宗利音 ピアノ:阪田知樹*

チャイコフスキー/イタリヤ奇想曲 作品45

ガーシュウィン/ラプソディー・イン・ブルー*

メンデルスゾーン/交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」

主催:川崎市/ミュージア川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ) お問い合わせ:ミュージア川崎シンフォニーホール TEL(044)520-0200

8/22(金) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 仙台公演

仙台銀行ホール イズミティ21 大ホール

指揮:トン・コブマン ヴァイオリン:佐藤俊介

モーツァルト/セレナーデ 二長調 K. 239「セレナータ・ノットウルナ」

モーツァルト/ヴァイオリン協奏曲 第4番 二長調 K. 218

モーツァルト/交響曲 第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」

主催:NHK仙台放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

8/23(土) 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 盛岡公演

盛岡市民文化ホール 大ホール

出演者・曲目は8月22日と同じ

主催:NHK盛岡放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

8/24(日) 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 弘前公演

弘前市民会館 大ホール

出演者・曲目は8月22日と同じ

主催:NHK青森放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

9/2(火) 7:00pm | Storia IV

サントリーホール

指揮: 広上淳一 ヴァイオリン: 服部百音
プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品19
ストラヴィンスキー／ヴァイオリン協奏曲 二長調
ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77
主催・お問合せ: サンライズプロモーション東京 TEL(0570)00-3337

9/6(土) 3:00pm | NHK交響楽団 角田鋼亮(指揮) 中野りな(ヴァイオリン)

埼玉会館 大ホール

指揮: 角田鋼亮 ヴァイオリン: 中野りな
モーツァルト／歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲
チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35
ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」
主催: (公財) 埼玉県芸術文化振興財団 お問合せ: SAF チケットセンター TEL(0570)064-939

9/7(日) 3:00pm | NHK交響楽団 郡山公演

けんしん郡山文化センター 大ホール

出演者・曲目は9月6日と同じ
主催: (公財) 郡山市文化・学び振興公社 (郡山市民文化センター指定管理者)
お問合せ: けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) TEL(024)934-2288

9/21(日) 3:00pm | 第27回 NHK交響楽団 足利定期公演

あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ)・文化ホール

指揮: ファビオ・ルイージ ヴァイオリン: マリア・ドウエニャス
武満 徹／3つの映画音楽
ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61
メンデルスゾーン／交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」
主催: (公財) 足利市みどり文化スポーツ財団 お問合せ: あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ) TEL(0284)72-8511

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

4/20日 3:30pm

指揮: パーヴォ・ヤルヴィ ピアノ: ベンジャミン・グローヴナー(プリテン)、松田華音(ストラヴィンスキー)
ストラヴィンスキー／バレエ音楽「ペトルーシカ」(全曲/1947年版)
プリテン／ピアノ協奏曲 作品13
プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis

7/6日 3:30pm

出演者・曲目は7月5日と同じ

主催・お問合せ: Bunkamura TEL (03) 3477-3244

海外公演

ヨーロッパ公演2025 | 指揮：ファビオ・ルイーゼ(NHK交響楽団 首席指揮者)

プログラムA	マーラー／交響曲 第3番 二短調	メゾ・ソプラノ:オレシア・ベトロヴァ 女声合唱:オランダ放送合唱団 児童合唱:オランダ児童合唱団
プログラムB	マーラー／こどもの不思議な角笛—「トランペットが美しく鳴り響くところ」* 「浮世の生活」*「原光」*「死んだ鼓手」*「少年鼓手」* マーラー／交響曲 第4番 長調 **	バリトン:マティアス・ゲルネ* ソプラノ:イン・ファン**
プログラムC	グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 マーラー／交響曲 第4番 長調 *	ピアノ:ルドルフ・フフビンダー ソプラノ:イン・ファン*
プログラムD	武満 徹／3つの映画音楽 ヘルク／ヴァイオリン協奏曲 ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98	ヴァイオリン:諏訪内晶子
プログラムE	ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 長調 Hob. VIIb-1 マーラー／交響曲 第4番 長調 *	チェロ:ヤン・フォークラー ソプラノ:イン・ファン*

2025 5/9 金 8:00pm	アントワープ(ベルギー)	エリーザベト王妃ホール[プログラムC]
5/11 日 8:15pm	アムステルダム(オランダ) 「マーラー・フェスティバル2025」参加公演	コンセルトヘボウ 大ホール[プログラムA]
5/12 月 8:15pm	アムステルダム(オランダ) 「マーラー・フェスティバル2025」参加公演	コンセルトヘボウ 大ホール[プログラムB]
5/14 水 7:30pm	ウィーン(オーストリア)	ウィーン・コンツェルトハウス 大ホール[プログラムC]
5/15 木 8:00pm	ブラハ(チェコ) 「ブラハの春 音楽祭」参加公演	ルドルフィヌム ドヴォルザーク・ホール[プログラムD]
5/17 土 7:30pm	ドレスデン(ドイツ) 「ドレスデン音楽祭」参加公演	聖母教会[プログラムD]
5/18 日 6:00pm	ドレスデン(ドイツ) 「ドレスデン音楽祭」参加公演	文化宮殿 コンサートホール[プログラムE]
5/20 火 7:30pm	インスブルック(オーストリア)	コンGRES・インスブルック チロル・ホール[プログラムD]

[協賛]



特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 喜勢陽一
東日本電信電話株式会社	代表取締役社長 澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO 小宮 暁
株式会社ポケモン	代表取締役社長 石原恒和

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 山浦 敦
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 山田裕行	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ 内山貴史
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 吉岡秀二
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 當麻隆昭
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 平田恭佐
・ AXLBIT(株) 代表取締役 長谷川章博	・ (一財)ITOH 代表理事 伊東忠俊	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 手島一宏
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 取締役社長 大西安樹	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博		・ (学)NHK 学園 理事長 等々力 健

- ・(株)NHK グローバルメディアサービス
代表取締役社長 | 神田真介
- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファンティアーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 | 宮田知秀
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エレクト
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・(株)大塚商会
代表取締役社長 | 大塚裕司
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 井上 眞
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 佐藤俊美
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 寺田 博
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)
代表取締役 | 陰山正弘
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチャー・エンタテインメント(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 田母神博文
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長CEO | 松田浩路
- ・(会)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 小川達大
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 鳥井信宏
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役社長 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクシス・ホールディングス
代表取締役社長 | 太田 寛
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新角卓也
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役 会長兼社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・友友商事(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
上野真吾
- ・友友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役社長 | 澤本 泉
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 石川耕治

- ・第一三共(株)
代表取締役会長 | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 岡野俊亮
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田原 昇
- ・(株)ダブルスタンダード
代表取締役 | 清水康裕
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 前田鎮男
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通
代表取締役社長執行役員 | 佐野 傑
- ・(株)テンポプリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹羽俊介
- ・東急(株)
取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニティー
代表取締役社長 | 木村昌平
- ・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都築 豊
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役 | 西川八重子
- ・(-財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・中本光子
- ・日興アセットマネジメント(株)
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役代表執行役会長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本カイン(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本たばこ産業(株)
代表取締役社長 | 寺島正道
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 竹添進二郎
- ・日本電気(株)
取締役代表執行役社長兼CEO
森田隆之
- ・日本BCP(株)
代表取締役社長 | 角谷育則
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 竹添賢一
- ・日本みらいホールディングス(株)
代表取締役社長 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニトリホールディングス
代表取締役会長兼CEO | 似鳥昭雄
- ・(株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニックホールディングス(株)
代表取締役社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・(株)ビー・ジー・エム
代表取締役 | 山川慎一郎
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 櫛田龍治
- ・古川宣一
- ・ペプチドリーム(株)
代表取締役社長CEO | リード・パトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・ボラリス・キャピタル・グループ(株)
代表取締役社長 | 木村雄治
- ・前田工織(株)
代表取締役社長 | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・町田優子
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 大本晶之
- ・溝江建設(株)
代表取締役 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 舩曳真一郎

- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
 - ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也
 - ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
 - ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 近藤明人
 - ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
 - ・三橋洋之
 - ・三原穂積
 - ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
 - ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直敬
 - ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
 - ・(株)明電舎
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
 - ・メットライフ生命保険(株)
代表取締役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン
 - ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
 - ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
 - ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
 - ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
 - ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 松岡祐治
 - ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
 - ・米澤文彦
 - ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
 - ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 貞広貴志
 - ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO | 笠井 徹
 - ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
 - ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
 - ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 白鳥正美
 - ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
東 克己
 - ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 田渕浩記
 - ・YCC(株)
代表取締役 | 中山武之
- (五十音順、敬称略)

NHK交響楽団へのご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

曲目解説執筆者

木本麻希子(きもと まきこ)

博士(学術)。大阪大学ダイバーシティ&インクルージョンセンター特任助教。DE&I推進に関する共同研究および調査分析を担当。専門はプロコフィエフを中心とした20世紀のロシア音楽作品研究。おもな論文に「セルгей・プロコフィエフの音楽の暗号と芸術性——《ピアノ・ソナタ》におけるラインとコードのアナグラム」など。

向井大策(むかい だいさく)

沖縄県立芸術大学音楽学部准教授。博士(音楽学)。ベンジャミン・ブリテンの研究を出発点に、コミュニティ・オペラや公共音楽学・環境音楽学の研究と実践に取り組む。共編著書に「地域芸能と歩む』『表現と知を編み直す01——土地に歌を返すこと』『表現と知を編み直す02——土地とともに歌うこと』、監修に「ソング・オブ・サマー——真実のディールias」など。

(五十音順、敬称略)

Information

新入団	第1コンサートマスター 長原幸太(ながはら こうた) 2025年4月1日付で入団。 トランペット 藤井虹太郎(ふじい こうたろう) 2025年4月1日付で入団。
退団	特別コンサートマスター 篠崎史紀(しのざき ふみのり) 2025年3月31日付で退団。 トロンボーン 吉川武典(よしかわ たけのり) 2025年3月31日付で退団。
訃報	当団元ヴァイオラ奏者(1959年1月入団)で団友の渡部啓三(わたなべ けいぞう)氏が、2025年2月25日に逝去されました。享年91。ここに謹んで哀悼の意を表します。 当団元常務理事(1989年8月入団)で団友の関川精二(せきかわ せいじ)氏が、2025年3月4日に逝去されました。享年90。ここに謹んで哀悼の意を表します。

N響の出演番組

定期公演や特別公演の様相が放送されるほか、大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

クラシック音楽館(N響定期公演ほか)

Eテレ 日曜9:00~11:00pm

ベストオブクラシック

FM 7:35~9:15pm

※2025年度から放送時間が変更になりました。

N響演奏会

FM 土曜4:00~5:50pm(不定期)

クラシックTV(クラシック全般の話題を取り上げます)

Eテレ 木曜9:00~9:30pm

月曜2:00~2:30pm(再放送)

これらの番組は放送終了後も「NHKプラス」(テレビ)や「らじる★らじる」(ラジオ)で1週間何度でもご視聴いただけます。出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

First Concertmaster: Sunao Goko, Kota Nagahara

Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Ayumu Iizuka
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Taiga Tojo
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Haruhiko Mimata
- Nana Miyagawa
- Tutomu Yamagishi
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
- ◎ Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Ryuto Murao
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Masamichi Yokoshima
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda
- * Reika Shimizu
- * Yui Yuhara

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- * Eri Kuribayashi
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Yusuke Yabe
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- # Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- * Shuhei Nakamura
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- * Shusuke Ouchi
- Yuki Sato
- Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kukimoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Kotaro Fujii
- Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane

Tuba

- Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

Percussion

- Tatsuya Ishikawa
- Hidemi Kuroda
- Satoshi Takeshima

Harp

- Risako Hayakawa

Stage Manager

- Masaya Tokunaga

Librarian

- Akane Oki
- Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector, * Intern)

PROGRAM

A

Concert No. 2034

NHK Hall

April

12 (Sat) 6:00pm

13 (Sun) 2:00pm

conductor

Paavo Järvi

viola

Antoine Tamestit*

concertmaster

Kota Nagahara

Hector Berlioz
Harold en Italie, symphony
 (*Harold in Italy*)* [43']

- I Harold aux montagnes (Harold in the Mountains)
- II Marche de pèlerins (March of the Pilgrims)
- III Sérénade d'un montagnard des Abruzzes (Serenade of an Abruzzo Mountaineer)
- IV Orgie de brigands (Orgy of the Brigands)

— intermission (20 minutes) —

Sergei Prokofiev
Symphony No. 4 C Major Op. 112
 (Revised Version / 1947) [38']

- I Andante; Allegro eroico
- II Andante tranquillo
- III Moderato; quasi allegretto
- IV Allegro risoluto

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Paavo Järvi, conductor



©Kazuo Yokawa

Paavo Järvi was born in Tallinn, the capital of the Republic of Estonia (then part of the former Soviet Union) in 1962. His father Neeme Järvi is also a renowned conductor. After learning conducting and percussion at a local music school, he went to the United States to study conducting at the Curtis Institute of Music, and then, he was under the tutelage of Leonard Bernstein in Los Angeles. He has successively held positions at the Malmö Symphony Orchestra in Sweden, the Cincinnati Symphony Orchestra, The Deutsche Kammerphilharmonie Bremen, the Frankfurt Radio Symphony Orchestra, and the Orchestre de

A

12 & 13, APR. 2025

Paris to date, of which, with The Deutsche Kammerphilharmonie Bremen, he has continued to serve as Artistic Director since 2004. From 2015 to 2022, he was Chief Conductor of the NHK Symphony Orchestra (now Honorary Conductor), while he was also appointed Music Director of the Tonhalle-Orchester Zürich, another position he still serves today.

He has made masterful performances in a wide range of repertoire with the NHK Symphony Orchestra, among which he has particularly demonstrated his artistry in modern and contemporary works, delivering dazzling performances with his refined sensibility, combined with meticulous music making. I am sure in the coming concerts, his inherent refined sense will be fully displayed in the works of Prokofiev, Stravinsky, and Britten, however, on the other hand, he will also bring a breath of fresh air to Berlioz by sharp and straightforward approach he has been known for.

[Paavo Järvi by Motoyuki Teranishi, music critic]

Antoine Tamestit, viola



Antoine Tamestit, one of the most renowned violists of today who freely shifts himself between solo and ensemble performances, will make his first appearance with the NHK Symphony Orchestra. Furthermore it is under the baton of Paavo Järvi, in whom he has a strong trust. With Paavo Järvi he performed with the Frankfurt Radio Symphony Orchestra, the Orchestre de Paris, and the Tonhalle-Orchester Zürich. Their

collaboration in *Harold in Italy* performed with the Tonhalle-Orchester Zürich at the Musikverein in Vienna also won artistic acclaim.

He was born in Paris in 1979, and after studying at the Conservatoire de Paris and Yale University, he won the first prize at four international competitions including the Primrose International Viola Competition in the U.K. and ARD International Music Competition. He enjoys a wide repertoire ranging from baroque to contemporary music, having been engaged in the world premiere performances of works by Thierry Escaich, Bruno Mantovani, and Olga Neuwirth. Until 2023, he served Programming Director for Viola Space (founded by Nobuko Imai in 1992). He has worked with an endless list of world's leading conductors, orchestras and artists. One of the violas he plays is commonly known as the 'Gustav Mahler,' the first viola made in 1672 by Stradivarius (on loan from the Habisreutinger Foundation).

[Antoine Tamestit by Yoshimichi Okuda, music critic]

Hector Berlioz (1803–1869)

Harold en Italie, symphony (Harold in Italy)

French composer Berlioz laid the groundwork for Romanticism in music. His *Symphonie fantastique* (*Fantastical Symphony*) (1830) was a pivotal transition from the Classical symphony to the Romantic symphonic poem, a programmatic genre that Franz Liszt (1811–1886) would soon invent. In this epochal work, Berlioz employed a recurrent melody (representing a leading character) that he called “*idée fixe*” (fixed idea) foretelling Richard Wagner (1813–1883)’s “*leitmotiv*.” Also, *Symphonie fantastique* showcases the excellent instrumentation of Berlioz who is the author of a historic orchestration treatise.

Those characteristics are fully revealed in *Harold en Italie* (*Harold in Italy*) as well. Penned in the summer of 1834, it is about journeys. Inspired freely by Byron’s narrative poem *Childe Harold’s Pilgrimage*, Berlioz here reminisces his own journey in Italy utilizing his above-mentioned *idée fixe* technique and ingenious scoring skill. The winner of the Prix de Rome 1830 (a prestigious scholarship), young Berlioz had stayed in Italy for fifteen months. Having hard feelings toward Rome, then his base, he often escaped to nearby areas such as the Abruzzo mountains located northeast of Rome.

According to Berlioz’s recollections, *Harold en Italie* was initially conceived in response to a request from Nicolò Paganini. Impressed by *Symphonie fantastique*, the Italian legendary violinist asked Berlioz to compose a concerto for the former to display his Stradivarius viola. However, Berlioz’s sketch for the project dissatisfied Paganini shortly due to the not so virtuosic solo viola part brimming with rests. The original plan ended in failure, yet Berlioz would finish the work as “*Symphonie avec alto principal* (Symphony with Principal Viola),” entitling the four movements as below.

The first movement *Harold aux montagnes* (*Harold in the Mountains*) “Scenes of Melancholy, Happiness and Joy” consists of a slow introduction and the faster sonata section. The solo viola is first heard over harp giving the theme of Harold, a melancholy dreamer (Berlioz’s words). This melody will recur on the viola as the *idée fixe* throughout the symphony, depicting Harold’s wandering in nature. After the prayerful slow movement *Marche de pèlerins* (*March of the Pilgrims*) “Procession of the Pilgrims Singing the Evening Hymn,” the scherzo movement *Sérénade d’un montagnard des Abruzzes* (*Serenade of an Abruzzo Mountaineer*) quotes music by the Pifferari who come down from mountains to Rome when Christmas approaches: these itinerant musicians left a deep impression on Berlioz. The finale *Orgie de brigands* (*Orgy of the Brigands*) “Reminiscences of the Preceding Scenes” has brigands kill Harold, before the theme of brigands goes on the rampage at the conclusion.

Sergei Prokofiev (1891–1953)

Symphony No. 4 C Major Op. 112 (Revised Version / 1947)

Prokofiev was born in Imperial Russia (today in Donetsk Oblast, Ukraine) in the last decade of the 19th century. Following the 1917 Revolution, he left his home in 1918 by permission of the Soviet authorities to compose and perform abroad. In 1936, he returned for good to the Stalinist USSR offering to him some carrots of fame and opportunities. The modernist

A

12 & 13, APR. 2025

composer since led a difficult life and was forced to meet the official Soviet style called “Socialist Realism,” otherwise he would be destined for purge, labor camp, torture or execution.

The background story of Symphony No. 4 reflects these changes his life went through. This work is based on musical materials from *Le Fils prodigue* (*The Prodigal Son*) Op. 46, the ballet score Prokofiev wrote abroad in 1928–29 for Sergei Diaghilev’s dance company, Ballets Russes. The ballet’s Biblical story features the titular protagonist who leaves his wealthy father’s house for a prodigal journey. The Son, penitent, returns home at the end.

Foreseeing the potential of the ballet’s materials for symphonic expansion, Prokofiev employed them to write the Symphony No. 4 Op. 47 which was first performed in 1930 in Boston, USA. The symphony’s 1947 version performed today could be considered a re-creation rather than a revised music: in fact, Prokofiev gave it the new opus number 112. This new version dates from the period after the communist party increased their censorship under the infamous Zhdanov Doctrine (1946–). Thickening the orchestra with piano, harp and other instruments, Prokofiev turned the compact neo-Classical symphony into the heavier, more extensive and heroic one. Despite all these efforts to radically change the work however, the Stalinist regime banned Op. 112 in the USSR during Prokofiev’s lifetime.

The opening movement has a slow introduction and the main sonata section. The march-like aggressive first sonata theme is from the number *The (Male) Dancers* of the above-mentioned ballet *Le Fils prodigue*. The melodious second movement spotting flutes is derived from the ballet’s expressive finale *The Return* where the Prodigal Son is welcomed back by his father with love and forgiveness. The third movement, slightly satiric, is a scherzo mainly based on the ballet’s number *The Seductress*. The final movement in a flexible rondo form begins with a resolute theme from the ballet’s opening *The Departure* and reaches the brassy, triumphant finish in the Soviet style.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.2035

Suntory Hall

April

17 (Thu) 7:00pm

18 (Fri) 7:00pm

conductor

Paavo Järvi | for a profile of Paavo Järvi, see p. 57

piano

Benjamin Grosvenor*

Kanon Matsuda♦

concertmaster

Kota Nagahara

Igor Stravinsky***Petrushka, burlesque in 4 scenes***
(Complete, 1947 Version)♦ [34']

- I The Shrove—Tide Fair
- II Petrushka
- III The Blackmoor
- IV The Shrove—Tide Fair and the Death of Petrushka

— intermission (20 minutes) —

Benjamin Britten**Piano Concerto Op. 13* [35']**

- I Toccata: Allegro molto e con brio
- II Waltz: Allegretto
- III Impromptu: Andante lento
- IV March: Allegro moderato;
sempre alla marcia

Sergei Prokofiev***The Love for Three Oranges,***
symphonic suite Op. 33bis [16']

- I The Ridicules
- II Infernal Scene
- III March
- IV Scherzo
- V The Prince and the Princess
- VI Flight

- All performance durations are approximate.

B

17 & 18, APR, 2025

Benjamin Grosvenor, piano



Benjamin Grosvenor was born and brought up in England, and studied at the Royal Academy of Music. In 2011, he signed a contract with a prestigious British label, becoming the youngest British musician in history and the first British pianist in 60 years to do so. The album of Schumann and Brahms released in 2023 was selected as Gramophone Editor's Choice, as well as a Diapason d'Or de L'Année.

He made his first appearance at the BBC Proms in 2011 performing Liszt's Piano Concerto No.2, and since then he has appeared on regular basis, and in 2020, he worked with Paavo Järvi, playing Shostakovich Piano Concerto No. 1. In addition to varieties of projects he participated in as Artist-in-Residence of both Wigmore Hall and Radio France, he appeared in major music festivals, including 'Chopin and his Europe' Festival in Warsaw and The Festival de La Roque d'Anthéron. He is also a keen chamber musician. Recently, he was acknowledged by Gramophone as one of the top 50 pianists ever on record.

This is his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra. He will be displaying sublime yet passionate music with his playing of a work by Britten, a great composer of his homeland.

Kanon Matsuda, piano



Born in Takamatsu-City of Kagawa Prefecture, Kanon Matsuda started learning piano at the age of four, and when she was six, went to Russia to study under Elena Ivanova, and then in the following year, entered the Moscow Gnessin Special School (college) of Music. After that, she was accepted at the Moscow State Conservatory as the first Japanese student to receive a special scholarship from the Russian government, studied under Mikhail Voskresensky and Eliso Virsaladze, and completed graduate school in June 2021.

She first played with an orchestra at the age of eight, and since then she has played under the batons of renowned conductors such as Mikhail Pletnev, Valery Gergiev, and Andrea Battistoni as well as leading orchestras, and in 2014, she made her debut from a long-established German label, and has released two albums to date.

She performed Akira Ifukube's *Ritmica Ostinata* with the NHK Symphony Orchestra conducted by Michiyoshi Inoue in 2020, and Shchedrin's Piano Concerto No. 1 with the Japan Century Symphony Orchestra conducted by Norichika Iimori at the NHK Music Festival in 2021, both of them have earned high acclaim. In 2023, she was a soloist for the NHK Symphony Orchestra's Hokkaido tour.

As she grew up in an environment of Russian culture since her early age, her playing of Stravinsky's *Petrushka* will garner much expectation.

[Benjamin Grosvenor, Kanon Matsuda by Haruka Kosaka, music journalist]

Igor Stravinsky (1882–1971)***Petrushka*, burlesque in 4 scenes (Complete, 1947 Version)**

Music historians have dubbed Stravinsky “The Chameleon,” as the Russia-born composer drastically changed styles several times. On top, he was always ahead of the time opening a new era in classical music history.

Initially, Stravinsky composed the ballet score *Petrushka* in Europe before World War I for Sergei Diaghilev’s dance company, Ballets Russes. Premiered in 1911, it stunned Paris’ discerning audience with its modernist approaches. The work stylistically belongs to Stravinsky’s early “primitivistic” period alongside his ballet scores *The Firebird* (1910) and *The Rite of Spring* (1913).

The plot of *Petrushka* is set at a festive fair during Russian Mardi Gras. Inspired by the “Commedia dell’arte,” an Italian traditional comedy with masked performers, it tells the love triangle story of three theater puppets (*Petrushka*, *The Ballerina* and *The Moore*) awakened by *The Magician* (or *The Charlatan*). *Petrushka*, a weak clown-puppet made of straw, tried to court *The Ballerina* unsuccessfully. He ends up being brutally killed by his handsome rival in love in front of the fair crowd, before reappearing as a ghost above the puppet theater. A former pupil of Nikolai Rimsky-Korsakov (1844–1908), Stravinsky borrowed several Russian folk songs for the vivid, avant-garde score. The most well-known features are the utilization of the recurrent, dissonant “*Petrushka* chord” (combining the two major triads of C major and F-sharp major) as well as a prominent role given to a piano.

The 1947 revised version of *Petrushka* was prepared when Stravinsky was in his mid-sixties, after he took US citizenship in 1945. Back in 1939, the outbreak of World War II had made him decide to move from Europe to America, the cosmopolitan composer’s last base. Compared to the original 1911 version, the 1947 one for a smaller orchestra sounds thinner and less sentimental but not without color. We can clearly hear the residue of musical neo-classicism, the movement that Stravinsky himself originated in 1920 to revive styles and aesthetics of the past in a modern light.

Benjamin Britten (1913–1976)**Piano Concerto Op. 13**

Britten is one of the most notable English composers during the 20th century, alongside his seniors Edward Elgar (1857–1934) and Ralph Vaughan Williams (1872–1958). Besides his major contribution to the English opera as represented by his *Peter Grimes* (1945), Britten exhibited a great talent in different instrumental and vocal genres writing masterworks such as *The Young Person’s Guide to the Orchestra* (1945) and *War Requiem* (1962).

Britten was born in a port town in Suffolk facing the North Sea in 1913, the year when Stravinsky’s ground-breaking ballet score *The Rite of Spring* was premiered to alter the course of music history. Having said that, Britten, a precocious composer, would keep his distance from avant-garde and experimental pursuits unlike Arnold Schönberg (1874–1951) and John Cage (1912–1992). He instead updated the conventional tonal language relying often on traditional forms, to leave us truly original works.

A prime example of Britten's early period, the Piano Concerto Op. 13 was written in 1938 in his mid-twenties and premiered the same year by himself as the soloist at the BBC Proms (The original third movement *Recitative and Aria* was replaced with *Impromptu* in 1945). Both in style and form, the concerto belongs to the above-mentioned Stravinskian neo-classicism, with the four movements presumably modeled after the dance suite from the Baroque era.

The radiant opening movement with a rapid motoric burst of notes, *Toccata*, reminds us of compositions by another neo-classicist Francis Poulenc (1899–1963). The nostalgically gloomy second movement, *Waltz*, is often likened to a tribute to the has-been Viennese waltz. The slow third movement, *Impromptu*, is a passacaglia, a form typical of the Baroque era of continuous variation on a given theme (usually a bass line): here Britten lets the piano give the theme solemnly at the start. Then without pause, begins the anxious finale, *March*, which is in a way, the most fundamental form of dance. Towards the end, the first movement's bravura toccata is recalled in preparation for the wild finish.

Sergei Prokofiev (1891–1953)

The Love for Three Oranges, symphonic suite Op. 33bis

Born in Imperial Russia (today in Donetsk Oblast, Ukraine), Prokofiev lived overseas for eighteen years following the Bolshevik Revolution. He left his home in 1918 by permission of the Soviet authorities and, avoiding western disasters of war, headed east for America via Vladivostok and Tokyo. During this voyage, he prepared the libretto for his opera based on *The Love for Three Oranges* by the Venetian playwright Carlo Gozzi (1720–1806). The opera would be first-staged in Chicago in 1921, while Prokofiev arranged the symphonic suite in 1919 and revised it in 1924. Abundant in satiric effects, the music shows his earlier ferocious modernism at times.

In the eccentric plot, everyone tries in vain to make the hypochondriac Prince laugh, but he does so accidentally during a party seeing the Witch falling over. Furious, she puts a curse on him so he falls in love with three oranges that he goes in search of. The first two Princesses coming out of the enormous oranges die of thirst. The Prince marries the third Princess and expels the villains from the Kingdom. The best-known of the suite, the blatant III *March* is from the scene where the sick Prince is forcibly carried from his bedroom to the party. At the IV *Scherzo*, a rhythm of the Italian folk dance tarantella accompanies the hero's feverish hunt for the oranges in the desert.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 60

The Subscription Concerts Program 2024–25

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2025 05	A	Concert No. 2036	The Program Scheduled to be Performed in NHKSO Europe Tour 2025	Ordinary	Youth
		April 26 (Sat) 6:00pm 27 (Sun) 2:00pm – Program A of the May subscription concerts will be held in April. NHK Hall	Mahler Symphony No. 3 D Minor Fabio Luisi, conductor Olesya Petrova, mezzo soprano Tokyo Opera Singers, female chorus NHK Tokyo Children Chorus, children chorus	S 15,000 A 12,500 B 10,000 C 8,000 D 6,500 E 4,500	S 7,000 A 5,000 B 5,000 C 4,000 D 3,000 E 2,000
2025 06	B	Concert No. 2037	The Program Scheduled to be Performed in NHKSO Europe Tour 2025	Ordinary	Youth
		May 1 (Thu) 7:00pm 2 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Berg Violin Concerto Mahler Symphony No. 4 G Major* Fabio Luisi, conductor Akiko Suwanai, violin Maki Mori, soprano*	S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
2025 06	C	Concert No. 2038		Ordinary	Youth
		May 30 (Fri) 7:00pm 31 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Schubert <i>Rosamunde</i> , overture Dohnányi <i>Variations on a Nursery Tune</i> , Op. 25* R. Strauss Symphonic Fantasy from <i>Die Frau ohne Schatten</i> (<i>The Woman without a Shadow</i>) R. Strauss Suite from <i>Der Rosenkavalier</i> (<i>The Rose-Bearer</i>) Giedrė Šlekytė, conductor Mao Fujita, piano*	S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
2025 06	A	Concert No. 2039		Ordinary	Youth
		June 7 (Sat) 6:00pm 8 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Rimsky-Korsakov <i>May Night</i> , opera—Overture Rakhmaninov <i>Rhapsody on a Theme of Paganini</i> , Op. 43* Tchaikovsky Symphony No. 6 B Minor Op. 74, <i>Pathétique</i> Vladimir Fedoseyev, conductor Yulianna Avdeeva, piano*	S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
2025 06	B	Concert No. 2040		Ordinary	Youth
		June 12 (Thu) 7:00pm 13 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Ibert Flute Concerto Bruckner Symphony No. 6 A Major Juanjo Mena, conductor Karl-Heinz Schütz, flute	S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
2025 06	C	Concert No. 2041		Ordinary	Youth
		June 20 (Fri) 7:00pm 21 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Korngold Violin Concerto D Major Op. 35 Mahler Symphony No. 1 D Major, <i>Titan</i> Tarmo Peltokoski, conductor Daniel Lozakovich, violin	S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

The Subscription Concerts Program 2025–26

2025 09	A	<p>Concert No. 2042 September 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm NHK Hall</p>	<p>Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, <i>Emperor</i> Franz Schmidt Symphony No. 4 C Major</p> <p>Fabio Luisi, conductor Yefim Bronfman, piano</p>	<p>Ordinary Youth S 11,000 S 5,500 A 9,500 A 4,500 B 7,600 B 3,500 C 6,000 C 2,800 D 5,000 D 1,800 E 3,000 E 1,400</p>	
		B	<p>Concert No. 2043 September 18 (Thu) 7:00pm 19 (Fri) 7:00pm Suntory Hall</p>	<p>Takemitsu <i>Three Film Scores</i> Beethoven Violin Concerto D Major Op. 61 Mendelssohn Symphony No. 4 A Major Op. 90, <i>Italianische (Italian)</i></p> <p>Fabio Luisi, conductor María Dueñas, violin</p>	<p>Ordinary Youth S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750</p>
			C	<p>Concert No. 2044 September 26 (Fri) 7:00pm 27 (Sat) 2:00pm NHK Hall</p>	<p>Mahler <i>Des Knaben Wunderhorn (The Boy's Magic Horn)</i> <i>—Rheinlegendchen (Little Rhine Legend)*</i>, <i>Wo die schönen Trompeten blasen (Where the Fair Trumpets Sound)*</i>, <i>Das irdische Leben (Earthly Life)*</i>, <i>Das himmlische Leben</i> <i>(Heavenly Life)*</i>, <i>Urilicht (Primeval Light)*</i> Sibelius <i>Four Legends</i>, symphonic poem Op. 22</p> <p>Ryan Bancroft, conductor Thomas Hampson, baritone*</p>
2025 10	A			<p>Concert No. 2046 October 18 (Sat) 6:00pm 19 (Sun) 2:00pm NHK Hall</p>	<p>Stravinsky <i>Symphony of Psalms</i> Mendelssohn Symphony No. 2 B-Flat Major Op. 52, <i>Lobgesang (Hymn of Praise)*</i></p> <p>Herbert Blomstedt, conductor Christina Landshamer, soprano* Marie Henriette Reinhold, mezzo soprano* Tilman Lichdi, tenor* Swedish Radio Choir, chorus</p>
		B		<p>Concert No. 2045 October 9 (Thu) 7:00pm 10 (Fri) 7:00pm Suntory Hall</p>	<p>Grieg <i>Aus Holbergs Zeit</i>, suite Op. 40 (<i>Holberg Suite</i>) Nielsen Flute Concerto Sibelius Symphony No. 5 E-flat Major Op. 82</p> <p>Herbert Blomstedt, conductor Sébastien Jacot, flute</p>
			C	<p>Concert No. 2047 October 24 (Fri) 7:00pm 25 (Sat) 2:00pm NHK Hall</p>	<p>Brahms Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83 Brahms Symphony No. 3 F Major Op. 90</p> <p>Herbert Blomstedt, conductor Leif Ove Andsnes, piano</p>
2025 11	A			<p>Concert No. 2048 November 8 (Sat) 6:00pm 9 (Sun) 2:00pm NHK Hall</p>	<p>Messiaen <i>Trois petites liturgies de la Présence Divine</i> <i>(Three Little Liturgies of the Divine Presence)*</i> Holst <i>The Planets</i>, suite Op. 32</p> <p>Charles Dutoit, conductor Yu Kosuge, piano* Motoko Oya, ondes martenot* Tokyo Opera Singers, female chorus</p>
		B		<p>Concert No. 2050 November 20 (Thu) 7:00pm 21 (Fri) 7:00pm Suntory Hall</p>	<p>Schumann <i>Manfred</i>, incidental music Op. 115—Overture Mozart Piano Concerto No. 25 C Major K. 503 R. Strauss <i>Ein Heldenleben</i>, symphonic poem Op. 40 (<i>A Hero's Life</i>)</p> <p>Rafael Payare, conductor Emanuel Ax, piano</p>
			C	<p>Concert No. 2049 November 14 (Fri) 7:00pm 15 (Sat) 2:00pm NHK Hall</p>	<p>The 150th Anniversary of Maurice Ravel's Birth Ravel <i>Pavane pour une Infante défunte (Pavane for a Dead Princess)</i> Ravel <i>Le tombeau de Couperin</i>, suite (<i>The Grave of Couperin</i>) Ravel <i>Daphnis et Chloé</i>, ballet (<i>Daphnis and Chloé</i>)*</p> <p>Charles Dutoit, conductor Nikikai Chorus Group, chorus*</p>

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2025
12

A **Concert No. 2051**
November
29 (Sat) 6:00pm
30 (Sun) 2:00pm
Program A of the December subscription concerts will be held in November.
NHK Hall

Shostakovich Violin Concerto No. 1 A Minor Op. 77
Zemlinsky *Die Seejungfrau*, fantasy (*The Mermaid*)

Fabio Luisi, conductor
Leonidas Kavakos, violin

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B **Concert No. 2052**
December
4 (Thu) 7:00pm
5 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Fujikura *Ocean Breaker* for Orchestra—in memoriam Pierre Boulez (2025)
[Commission Work for NHK Symphony Orchestra / World Premiere]
Franck *Variations symphoniques* for Piano and Orchestra (*Symphonic Variations*)*
Saint-Saëns Symphony No. 3 C Minor Op. 78, *Symphonie avec orgue* (*Organ Symphony*)

Fabio Luisi, conductor Tom Borrow, piano*

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C **Concert No. 2053**
December
12 (Fri) 7:00pm
13 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Chopin Piano Concerto No. 1 E Minor Op. 11 or No. 2 F Minor Op. 21
Nielsen Symphony No. 4 Op. 29, *The Inextinguishable*

Fabio Luisi, conductor
The Winner of the 19th International Chopin Piano Competition, piano

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

2026
01

A **Concert No. 2054**
January
17 (Sat) 6:00pm
18 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Mahler Symphony No. 6 A Minor, *Tragische* (*Tragic*)

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

B **Concert No. 2056**
January
29 (Thu) 7:00pm
30 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Mussorgsky / Shostakovich *Khovanshchina*, opera
—*Dawn over the Moscow River*, prelude
Shostakovich Piano Concerto No. 2 F Major Op. 102
Prokofiev Symphony No. 5 B-flat Major Op. 100

Tugan Sokhiev, conductor
Kanon Matsuda, piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C **Concert No. 2055**
January
23 (Fri) 7:00pm
24 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Debussy *Prélude à l'après-midi d'un faune* (*Prelude to the Afternoon of a Faun*)
Dutilleul Cello Concerto, *Tout un monde lointain...* (*A Whole Distant World...*)
Rimsky-Korsakov *The Tale of Tsar Saltan*, suite Op. 57
Stravinsky *The Firebird*, ballet suite (1919 edition)

Tugan Sokhiev, conductor
Michiaki Ueno, cello

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

2026
02

A **Concert No. 2057**
February
7 (Sat) 6:00pm
8 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Schumann Symphony No. 3 E-flat Major Op. 97, *Rheinische* (*Rhenish*)
Wagner *Götterdämmerung*, opera—*Siegfrieds Rheinfahrt*,
Siegfrieds Tod und Trauermarsch, *Brünnhildes Schlussgesang*:
*Starke Scheite schichtet mir dort**
(*Twilight of the Gods—Siegfried's Rhine Journey*,
Siegfried's Funeral March, *Brünnhilde's Immolation*)

Philippe Jordan, conductor
Tamara Wilson, soprano*

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

B **Concert No. 2059**
February
19 (Thu) 7:00pm
20 (Fri) 7:00pm
Suntory Hall

Dvořák Violin Concerto A Minor Op. 53
Brahms Serenade No. 1 D Major Op. 11

Jakub Hruša, conductor
Josef Špaček, violin

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C **Concert No. 2058**
February
13 (Fri) 7:00pm
14 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Kodály Variations on a Hungarian Folksong *The Peacock*
Hummel Trumpet Concerto E Major
Mussorgsky / Konoe *Pictures at an Exhibition*, suite

Gergely Madaras, conductor
Kazuaki Kikumoto (Principal Trumpet, NHKSO), trumpet

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2026
04

A	Concert No. 2060	Haydn Cello Concerto No. 1 C Major Hob. VIIb-1 Bruckner Symphony No. 9 D Minor	Ordinary	Youth
	April 11 (Sat) 6:00pm 12 (Sun) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Jan Vogler, cello	S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
	NHK Hall			

B	Concert No. 2061	Mozart Clarinet Concerto A Major K. 622 Mahler Symphony No. 5 C-sharp Minor	Ordinary	Youth
	April 16 (Thu) 7:00pm 17 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Fabio Luisi, conductor Kenji Matsumoto (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet	S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750

C	Concert No. 2062	Toyama <i>Divertimento for Orchestra</i> Prokofiev Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26 Ifukube <i>Ballata Sinfonica (Symphonic Ballad)</i> Britten <i>Peter Grimes</i> , opera— <i>Four Sea Interludes</i> Op. 33a	Ordinary	Youth
	April 24 (Fri) 7:00pm 25 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Tatsuya Shimono, conductor Kyohei Sorita, piano	S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000

2026
05

A	Concert No. 2064	Brahms Double Concerto for Violin and Cello, A Minor Op. 102 Brahms / Schönberg Piano Quartet No. 1 G Minor Op. 25	Ordinary	Youth
	May 23 (Sat) 6:00pm 24 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Michael Sanderling, conductor Christian Tetzlaff, violin Tanja Tetzlaff, cello	S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000

B	Concert No. 2063	Kazuo Yamada <i>Also sang ein Jüngling</i> , small symphonic poem (<i>Thus Sang a Young Man</i>) Hartmann <i>Concerto funebre (Funereal Concerto)*</i> Sugata <i>Symphonic Overture</i> Op. 6 Hindemith <i>Mathis der Maler</i> , symphony (<i>Matthias the Painter</i>)	Ordinary	Youth
	May 14 (Thu) 7:00pm 15 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Kazuki Yamada, conductor Suyoen Kim, violin*	S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750

C	Concert No. 2065	Vasks Commission Work for NHK Symphony Orchestra [Japan Premiere] Shostakovich Symphony No. 4 C Minor Op. 43	Ordinary	Youth
	May 29 (Fri) 7:00pm 30 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Andris Poga, conductor	S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000

2026
06

A	Concert No. 2067	Wagner <i>Die Meistersinger von Nürnberg—Vorspiel</i> (<i>The Mastersingers of Nuremberg—Prelude</i>) Mozart Piano Concerto No. 17 G Major K. 453 Bartók <i>Concerto for Orchestra</i>	Ordinary	Youth
	June 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Jaap van Zweden, conductor Conrad Tao, piano	S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400

B	Concert No. 2066	Honegger <i>Pastorale d'été</i> , symphonic poem (<i>Summer Pastoral</i>) Berlioz <i>Les nuits d'été</i> , songs Op. 7 (<i>Summer Nights</i>) Iber <i>Escales (Ports of Call)</i> Debussy <i>La mer</i> , three symphonic sketches (<i>The Sea</i>)	Ordinary	Youth
	June 4 (Thu) 7:00pm 5 (Fri) 7:00pm Suntory Hall	Stéphane Denève, conductor Gaëlle Arquez, mezzo soprano	S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750

C	Concert No. 2068	Sibelius <i>Andante festivo</i> Sibelius Violin Concerto D Minor Op. 47 Rakhmaninov Symphony No. 3 A Minor Op. 44	Ordinary	Youth
	June 19 (Fri) 7:00pm 20 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Tadaaki Otaka, conductor HIMARI, violin	S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

Overseas Tours

Europe Tour 2025 | Conductor: Fabio Luisi (Chief Conductor of NHKSO)

Program A	Mahler / Symphony No. 3 D Minor	Olesya Petrova, mezzo soprano Women of the National Radio Choir, female chorus National Children's Choir, children chorus
Program B	Mahler / <i>Des Knaben Wunderhorn (The Boy's Magic Horn)–Wo die schönen Trompeten blasen (Where the Fair Trumpets Sound)*, Das irdische Leben (Earthly Life)*, Urlicht (Primeval Light)*, Revelge (Reveille)*, Der Tamboursg'sell (The Drummer Boy)*</i> Mahler / Symphony No. 4 G Major**	Matthias Goerne, baritone* Ying Fang, soprano**
Program C	Grieg / Piano Concerto A Minor Op. 16 Mahler / Symphony No. 4 G Major*	Rudolf Buchbinder, piano Ying Fang, soprano*
Program D	Takemitsu / <i>Three Film Scores</i> for String Orchestra Berg / Violin Concerto Brahms / Symphony No. 4 E Minor Op. 98	Akiko Suwanai, violin
Program E	Haydn / Cello Concerto No. 1 C Major Hob. VIIb-1 Mahler / Symphony No. 4 G Major*	Jan Vogler, cello Ying Fang, soprano*

2025	5/9 Fri 8:00pm Antwerp, Belgium	Queen Elisabeth Hall [Program C]
	5/11 Sun 8:15pm Amsterdam, Netherlands Mahler Festival 2025	The Concertgebouw, Main Hall [Program A]
	5/12 Mon 8:15pm Amsterdam, Netherlands Mahler Festival 2025	The Concertgebouw, Main Hall [Program B]
	5/14 Wed 7:30pm Vienna, Austria	Wiener Konzerthaus, Großer Saal [Program C]
	5/15 Thu 8:00pm Prague, Czech Prague Spring Festival 2025	Rudolfinum, Dvořák Hall [Program D]
	5/17 Sat 7:30pm Dresden, Germany Dresdner Musikfestspiele	Frauenkirchen [Program D]
	5/18 Sun 6:00pm Dresden, Germany Dresdner Musikfestspiele	Kulturpalast Dresden, Konzertsaal [Program E]
	5/20 Tue 7:30pm Innsbruck, Austria	Congress Innsbruck, Saal Tirol [Program D]

Sponsored by:



N響関連のお知らせ

いつでもどこでも、NHKの番組を。

NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・
パソコン・テレビ^{※1}で
放送から1週間^{※2} 何度でも

お楽しみいただけます！

※1 テレビでは放送し番組配信のみ

※2 特定の番組の一部は延長2週間配信

受信契約者のお名前と住所を入力すれば
すぐにご利用できます。

※放送受信契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

アプリで便利に！



NHKラジオを聴くなら！

NHKラジオ らじる★らじる

「らじる★らじる」では、聴き逃しが放送終了後1週間何度でも楽しめます。

アプリ
ダウンロードは
こちらから



伝えるチカラ

NHK財団

- ◎ 公共メディアNHKを社会へ
- ◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

NHK財団は、
子法人の「NHK交響楽団」と共に、
社会貢献事業を進めていきます。

ステラ
net



NHK財団の最新情報はこちらから

NHK こども 音楽クラブ

「NHKこども音楽クラブ」は、
NHKとNHK交響楽団で
実施している出前授業。
全国各地の学校を訪ね
ミニコンサートを行っています。

間近で聴く演奏に
目を輝かせる子どもたち
そして、素顔のN響メンバーに
出会えるコンサートです。

出前授業の動画が
ホームページで
ご覧いただけます



<https://www.nhk.or.jp/event/kodomo-ongaku/>

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

“N響が学校にやってきた”をキャッチフレーズにNHKと共催して、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「NHK子ども音楽クラブ」、子どもと大人が夏休みに名曲を楽しめる「N響ほっとコンサート」、N響練習所のある高輪の保育園児を招いてN響メンバーがじかに音楽の楽しさを伝える「N響といっしょ！音を楽しむ!!」などを開催しています。音楽や音楽家に身近に接してもらうことで豊かな心を育む取り組みに、これから力を入れていきます。

優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたのが「指揮研究員」の制度です。有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年に創設された「N響アカデミー」では、オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積んでいます。修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員

井手 奏、佐久山修太

N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨
ヴィオラ：和田志織 コントラバス：桑原孝太郎
クラリネット：白井宏典 打楽器：菊池幸太郎
(2025年4月1日現在)

地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、ク

ラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしています。幼稚園、飲食店、ショッピングセンターで演奏したり、生徒たちにレッスンをするなど、地元に着した活動を行っています。最近では各地の放送局のイベントに参加して演奏する機会も増えています。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放送される『NHKのど自慢』では、審査の結果を伝える「鐘」をN響の打楽器奏者が担当することもあります。

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。2024年1月に起きた能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコンサートを開きました。

国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、海外での演奏にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオランダ・アムステルダムでの「マラー・フェスティバル」に参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが増えています。一方国内では、首都圏の大学などと連携して、私たちが主催する公演に外国人留学生のみなさんを招待しています。

異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や医療などの新しい課題に、異なる分野の人たちと手をたずさえて取り組んでいます。2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」では、離れていても同じ場所にいるように感じられるような映像・音声接続を実現する「IOWN APN 関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。

役員等・団友

役員等

理事長	中野谷公一							
常務理事	三溝敬志	大曾根 聡子						
理事	相川直樹	内永ゆか子	岡田知之	杉山博孝	銭谷眞美	田辺雅泰	團 宏明	毛利 衛
監事	春原雄策 濱村和則							
評議員	稲葉延雄	江頭敬明	樺山絃一	菅原 直	清野 智	田中宏暁	檀 ふみ	坪井節子
	中嶋太一	前田昭雄	三浦 惺	山名啓雄	渡邊 修			

事務局

演奏制作部	企画プロモーション部	経営管理部	特別主幹	芸術主幹
岩渕一真	森下文典	野村 歩	今村啓一	西川彰一
丸山千絵	黒川大亮	吉田麻子	技術主幹	
石井 康	猪股正幸	浅田武志		
利光敬司	吉賀亜希	目黒重治		
	宮崎則匡	山本能寛		
			尾澤 勉	

団友

	公門俊之	三原征洋	オーボエ	トランペット	瀬戸川 正	事務局
	齋藤真知亜	村山 弘			百瀬和紀	
	酒井敏彦	山田雄司	青山聖樹	井川明彦		稲川 洋
名誉コンサートマスター	清水謙二		北島 章	北村源三	ピアノ	入江哲之
	鈴木弘一	チェロ	浜 道晃	来馬 賢		金沢 孝
堀 正文	田 潤 彰		茂木大輔	関山幸弘	本荘玲子	小林文行
	田中 裕	岩井雅音		津堅直弘		清水永一郎
	鶴我裕子	木越 洋	クラリネット	板本浩規	理事長	関 照枝
コンサートマスター	中瀬裕道	齋藤鶴吉		福井 功		中馬 完
	永峰高志	三戸正秀	磯部周平	佛坂映千生		出口修平
海野義雄	根津昭義	銅銀久弥	加藤明久			西村集介
川上久雄	堀江 悟	丹羽経彦	横川晴晃	トロンボーン		芳賀由明
篠崎史紀	前澤 均	平野秀清				松崎ユリ
徳永二男	宮里親弘	藤本英雄	ファゴット	伊藤 清		望戸一男
堀 伝	武藤伸二	茂木新緑		神谷 敏		諸岡 淳
山口裕之	村上和邦		岡崎耕治	栗田雅勝		吉田博志
	蓬田清重	コントラバス	霧生吉秀	三輪純生		渡辺 克
ヴァイオリン			菅原恵子	吉川武典		渡辺克己
	ヴァイオラ	井戸田善之			役員	
板橋 健		志賀信雄	ホルン	チューバ		加納民夫
梅澤美保子	大久保淑人	佐川裕昭				唐木田信也
大澤 淨	小野富士	新納益夫	大野良雄	多戸幾久三		斎藤 滋
大林修子	梯 孝則		中島大之	原田元吉		鳴嶋郁夫
大松八路	河野昌彦	フルート	樋口哲生			原 武
金田幸男	菅沼準二		松崎 裕	打楽器		山崎大樹
川上朋子	店村眞積	菅原 潤	山田桂三			
窪田茂夫	田潤雅子	細川順三		有賀誠門		
黒柳紀明	中竹英昭	宮本明恭		岡田知之		

フィルハーモニー2025年4月号 | 第97巻 第3号
2025年4月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志 / 編集人◎猪股正幸

企画・編集: (一) 助NHK財団
取材・編集: (株)アルテスナブリッシング
表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社

©無断転載・複製を禁ず



「美人と若衆」喜多川歌磨筆
西楽堂所蔵（雑誌『目の眼』4・5月号に掲載）

〈紙版&デジタル版発売中〉

雑誌『目の眼』4・5月号

特集「江戸のメディアミックス 浮世絵と葛重」



骨董 古美術の愉しみをつたえるウェブマガジン
menomeonline.com

目
の眼

2025 夏編

響音

日本最高峰のオーケストラで聴く極上の名曲/
今年5月にリニューアルオープンの
府中の森で過ごす初夏の午後

指揮: 熊倉 優

ピアノ: 若林 顕

管弦楽: NHK交響楽団

ゴールドデン・
クラシック

ラフマニノフ: ピアノ協奏曲 第2番 八短調 op.18

リムスキー=コルサコフ: 交響組曲「シェエラザード」op.35

2025年7月13日(日)15:30開演(14:45開場)

府中の森芸術劇場 どりーむホール S席8,000円 A席7,000円 B席6,000円
C席5,000円(税込)

チケット一般販売 3月23日(日)

※未就学児童の入場不可。※都合により、出演者・曲目が変更となる場合がございます。※車椅子席をご希望のお客
様はA席チケットを購入の上、サンライズプロモーション東京へ事前にご連絡ください。

チケットの
ご予約

- Fivo <https://fan.pia.jp/fivo/> ※24時間受付 ※ご利用には会員登録が必要です。※チケット料金のほか手数料がかかります。
- チケットふちゆう 042-333-9999 (10:00~17:00) ※休業日は当劇場ホームページをご確認ください。
- チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/nhksogolden2025/> (Pコード:291-469) セブン-イレブン
- ローソンチケット <https://l-tike.com/nhksogolden2025/> (Lコード:33825) ローソン、ミニストップ店内Loppi
- イープラス <https://eplus.jp/nhksogolden2025/> ファミリーマート店舗

■ お問合せ: サンライズプロモーション東京 0570-00-3337(平日12:00~15:00) ※チケットの取扱はございません



MASARU
KUMAKURA

AKIRA
WAKABAYASHI

©堀田力丸



NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

主催: MIYAZAWA & Co. 共催: 公益財団法人府中文化振興財団 府中の森芸術劇場 協力: ヤマハ株式会社



N響定期を75分で「いいとこどり」!

毎年9月にシーズンが開幕する「N響定期公演」を前に行われるのがこのコンサート。
名作揃いの定期公演プログラムから、選りすぐりの聴きどころを75分間にギュッと詰め込んでお贈りします。
オーケストラは初めてという方、との演奏会に行くか迷っている方、長年N響定期会員を続けられてきた方、
とにかく手取り早くオーケストラの名曲を楽しみたい方、みんなウェルカムです。
みんな連れだってNHKホールに足をお運びください。



© Andrej Gric



NHKSO
Welcome
Concert

定期公演ってなあに?

プロのオーケストラにとって「定期公演」は活動の中心となる大切なコンサート。N響では1927年に第1回が行われ、創立100年を迎える2026年1月には2050回以上の開催を重ねます。A・B・Cの3つのシリーズごとに年間9回各2日、合計年間54公演にわたって世界的な指揮者・ソリストたちと演奏を繰り上げます。

コンサート ウェルカム N響

2025.
6.29 [日]

4:00pm 休憩のない75分程度の公演です。

NHKホール

指揮:平石章人

クラリネット: 松本健司 (N響首席クラリネット奏者)

ナビゲーター: 大林奈津子

- ワーグナー/楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲(6月A)
- ツェムリンスキー/交響詩「人魚姫」—第2楽章(抜粋)(12月A)
- グリーグ/組曲「ホルベアの時代から」—「ガヴォット」(10月B)
- シベリウス/交響詩「4つの伝説」—「レンミンケイネンの帰郷」(9月C)
- モーツァルト/クラリネット協奏曲—第2楽章(4月B)
- 外山雄三/管弦楽のためのフィヴェルティメント—第3楽章(4月C)
- ストラヴィンスキー/バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)—「女王たちの踊り」(1月C)
- ホルスト/組曲「惑星」—「木星」(11月A)

終演後のお楽しみ! N響メンバーのトークコーナー

料金(税込/全席指定)

NHKホールの全席を1ランクに設定
良席はお早めに!
一般: ¥2,000 / 定期会員: ¥1,700

29歳以下はさらにお得!
ユースチケット(29歳以下): ¥1,000

お得にみんなでNHKホールに!
ウェルカム・ヘアチケット
(2枚1組): ¥3,200

※一般・定期会員共通料金

発売開始日 3月13日(木)10:00am(一般)/3月10日[月]10:00am(定期会員先行)

前売所 ◎WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>
◎N響ガイド 0570-02-9502 ◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso
◎e+(イープラス) eplus.jp/nhkso ◎ロソンチケット t-tike.com/nhkso

- ◎ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のためのID・コース登録が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
- ◎定期会員割引・先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。
- ◎悪い言葉についてはN響ガイドにお問い合わせください。
- ◎N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1ヶ月前までとなります。
- ◎未就学児のご入場はお断りしています。
- ◎おむし等の理由で出演者や曲目等が必要となる場合や、公演中止となる場合がございます。公演中止の場合のそま、チケット代金の払い戻しはいたしません。
- ◎公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

観覧コーナー 満2歳~未就学児の方がご利用いただけます(事前予約要/有料)。お申し込み方法等の詳細はN響ホームページをご覧ください。

お問い合わせ: N響ガイド 0570-02-9502 営業時間: 10:00am~5:00pm(休休日:土・日・祝日)

※東京市内の主要公共機関平日昼間に限らず10:00am~開演時刻まで営業いたします。◎電話受付のみの営業となります。

主催: NHK/NHK交響楽団

nhkso.or.jp 公演詳細はN響ホームページで公開中



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください Follow us on



指揮：イェルク・ヴィトマン
Jörg Widmann, conductor

ヴァイオリン：辻 彩奈
Ayana Tsuji, violin

トランペット：ホーカン・ハーデンベルガー
Håkan Hardenberger, trumpet

管弦楽：NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

TOKYO
OPERA
CITY

イェルク・ヴィトマン
Jörg Widmann

作曲家たちの生と死をめぐる問いかけが
聴き手の生きる意欲を
奥底から温める

今年の Music Tomorrowでは、例年通り尾高賞受賞作品が披露されるほか、イェルク・ヴィトマンが指揮者として2作の自作自演を行う。2016年以来2度目の作品への受賞となる権代敦彦の《時と永遠を結ぶ絃—ヴァイオリンとオーケストラのための Op. 193》(2023)は、一首の粘り強く峻烈な持続で幕を開け、聴き手はいつしか温かな歌と滔々たる音の流れに包まれる。モチーフの扱いと緊密な時間の構築を得意とする権代の面目知らである。権代に新作を委嘱した経験をもつヴァイオリン界の若きホープ、辻彩奈の入魂のソロに期待が集まる。クラリネット奏者、作曲家、指揮者として世界を飛び回るヴィトマンの2つの近作は、いずれも好評を博し各国で再演を重ねてきた。《死の舞踏》(2022)は、過去の音楽を重要な発想の源とするヴィトマンの関心を端的に表す一作。かつてリストやサン・サーンスが音楽化した寝顔たちの真夜中の舞臺が、現代的な装いを施されて鮮烈に蘇る。コロナ禍によるロックダウンに、ユートピアの音楽をもって対抗しようとしたヴィトマンが作曲したのが、『迷宮』サイクルの第6作として位置づけられるトランペット協奏曲《楽園へ(迷宮VI)》(2021)。世界的名手ホーカン・ハーデンベルガーが雄弁に描き出す親密で寛和的な音響世界はもちろん、ヴィトマンが好んで用いる奏者の移動や身ぶりにも注目したい。

生と死への意識に貫かれた権代作品と《死の舞踏》双方の響きに漲る根源的なエネルギー、《楽園へ》の穏和で天國的な表情—宗教的ヴィジョンによって繊やかに聴かせる3作は、聴く人の生への意欲を奥底から温めてくれるにちがいない。

平野貴俊(音楽学・音楽評論)

N響 MUSIC TOMORROW 2025

June 26 (Thursday) 7:00pm / Pre-Concert Talk 6:30pm
Tokyo Opera City Concert Hall

2025年6月26日 木 7:00pm | 尾高賞授賞式・プレトーク 6:30pm
東京オペラシティ コンサートホール

権代敦彦 / 時と永遠を結ぶ絃—ヴァイオリンとオーケストラのための Op. 193 (2023) [第72回「尾高賞」受賞作品]

Gondai / Strings between Time and Eternity for Violin and Orchestra op. 193 (2023) [The 72nd Otaka Award Work]

ヴィトマン / 死の舞踏 (2022) [日本初演]

Widmann / Danse macabre for Orchestra (2022) [Japan Premiere]

ヴィトマン / 楽園へ(迷宮VI)—トランペットとオーケストラのための (2021) [日本初演]

Widmann / Towards Paradise (Labyrinth VI) for Trumpet and Orchestra (2021) [Japan Premiere]

チケット発売中

チケット料金(税込)

◎ 一般 | S:4,000円 / A:3,000円 / B:2,000円

◎ ユースチケット(29歳以下) | S:2,000円 / A:1,500円 / B:1,000円

- ・ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回に利用時に年齢確認のためユース登録が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
- ・N響定期会員の方は一般料金の10%割引となります。また、先行発売をご利用いただけます(取り扱いはWEBチケットN響・N響ガイドのみ)。
- ・車いす席についてはN響ガイドへお問い合わせください。
- ・N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります
- ・未成年者のご入場はお断りしています

お問い合わせ

N響ガイド:0570-02-9502

営業時間:10:00am~5:00pm(定休日:土・日・祝日)

- ※東京都内での主催公演開催日は曜日にかかわらず10:00am~開演時刻まで営業いたします。
- ※発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業となります。
- ※電話受付のみでの営業となります。

主催: NHK、NHK交響楽団

共催:公益財団法人東京オペラシティ文化財団

助成:公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団 / 公益財団法人 アフィニス文化財団

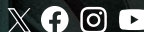
前売所

- ・WEBチケットN響: <https://nhkso.pia.jp>
- ・N響ガイド:0570-02-9502
- ・東京オペラシティチケットセンター:03-5353-9999
- ・チケットぴあ: pia.jp/t/nhkso
- ・e+(イープラス): eplus.jp/nhkso
- ・ローソンチケット: l-tike.com/nhkso



WEBチケットN響

nhkso.or.jp | Follow us on



R.シュトラウス:アルプス交響曲&ヨゼフ伝説 パーヴォ・ヤルヴィ(指揮) NHK交響楽団



最新盤



〔収録曲〕

リヒャルト・シュトラウス

アルプス交響曲 作品64 / TrV 233

「ヨゼフ伝説」交響的断章 AV 148 / TrV 231a

パーヴォ・ヤルヴィ(指揮) NHK交響楽団

〔録音〕 2023年4月15日・16日、NHKホールにおける
NHK交響楽団 第1980回定期公演 Aプログラムでの
ライブ・レコーディング DSDレコーディング

- ハイブリッドディスク (SA-CD層は2ch)
SICC 19085 ¥3,630(税込)
- デジタル配信:DSD・ハイレゾ (192kHz/24bit)で配信

《アルプス交響曲》という作品は人生のメタファーであり、高みに到達することを希求する私たちひとりひとりの様相を象徴的に描いています。だからこの作品における「山」とは、私たちが日々生きている人生の諸相の象徴なのです。

パーヴォ・ヤルヴィ

パーヴォ・ヤルヴィとN響が精緻かつ豪胆に描くアルプスの1日。

パーヴォ・ヤルヴィがNHK交響楽団首席指揮者としてのプログラミングと録音プロジェクトの中心に置いてきたR.シュトラウスのオーケストラ曲シリーズの完結編となる「アルプス交響曲」です。「夜が明け、登山を始め、山のさまざまな景観を眺めつつ頂上に到達し、下山の途中に嵐に遭遇するも難を逃れ再び夜に」という1日の行程が描かれ、登山の楽しい気分、湧き出る泉の水しぶき、頂上の遠大な光景、嵐などがバンダやウインドマシンも含む巨大編成のオーケストラの色彩豊かな音色のバレットを用いて描写されています。カップリングの「ヨゼフ伝説」交響的断章はディアギレフ率いるバレエ・リュスのために書いた同名のバレエ音楽からシュトラウス自らが編んだ演奏会用の組曲。

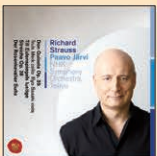
解説: パーヴォ・ヤルヴィ、広瀬大介、N響による作品演奏記録



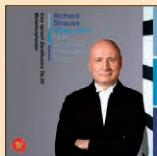
パーヴォ・ヤルヴィ&NHK交響楽団の名盤



R.シュトラウス:
交響詩チクルス①
英雄の生涯&
ドン・ファン
CD:SICC 40008
【ベスト・クラシック100種】
¥1,760(税込)



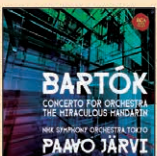
R.シュトラウス:
交響詩チクルス②
ドン・キホーテ、
テイル・オインシュピ
ーゲル&ばらの騎士
ハイブリッドディスク:
SICC 19020
¥3,300(税込)



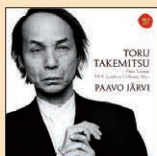
R.シュトラウス:
交響詩チクルス③
ツァラトストラは
かく語りき&
メタモルフォーゼン
ハイブリッドディスク:
SICC 10219
¥3,300(税込)



ストラヴィンスキー:
春の祭典
ハイブリッドディスク:
SICC 19055
¥3,520(税込)



バルトーク:
管弦楽のための
協奏曲・組曲「中国の
不思議な役人」
ハイブリッドディスク:
SICC 19067
¥3,630(税込)



武満徹:管弦楽曲集
諏訪内晶子
(ヴァイオリン)
ハイブリッドディスク:
SICC 19045
¥3,520(税込)

※表示価格は税込み定価です。

Sony Music Labels Inc.



水素で夢を実現。



2025年大阪・関西万博 水素の船から見える未来

時代はカーボンニュートラルへ。その夢に向け、私たちは切り拓いた。

水素をつくり、はこび、つかう。

その一つ一つのチャレンジが実を結び夢への軌跡を描いていく。

2025年、水素エネルギーが大きく動き出す。

水素でつなごう。人と、世界と、そして、夢を。



岩谷産業は、
2025年大阪・関西万博を
応援しています。

Iwatani

岩谷産業株式会社



船の仕組みや
・ルートは
こちらから